

昭和貳年八月十五日

中南米貿易事情

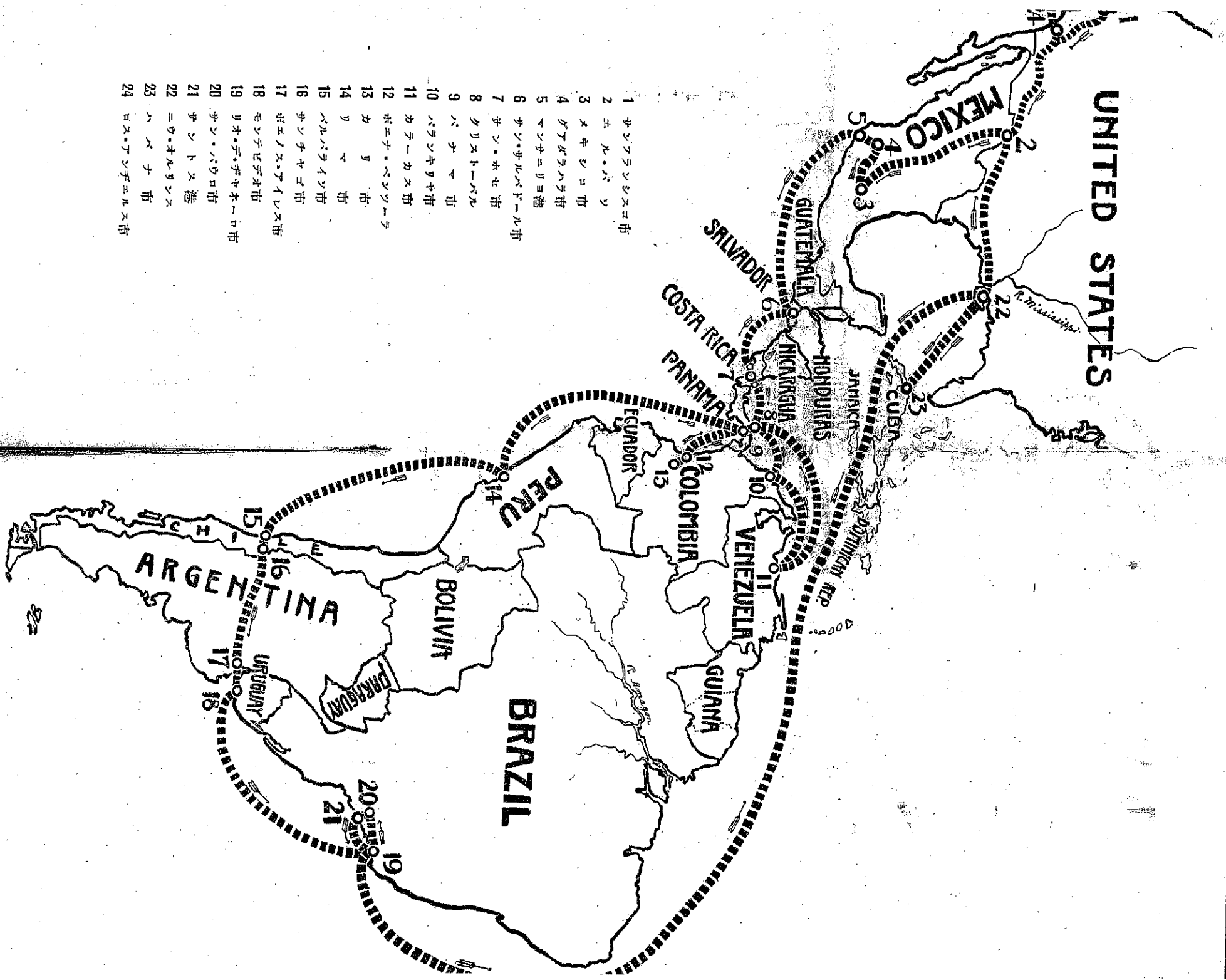
社団法人 橫濱貿易協會

本編は、去る七月廿一日、神奈川縣輸出絹織物検査所樓上に於て、本會と横濱輸出絹物同業組合共同主催の下に開催した、大正十五年度海外旅商報告會に於ける、本會派遣旅商田中辰之助氏の講演したる概要である。氏は目下詳細なる視察記執筆中であるが、茲に講演録の一として刊行會員及關係者に頒布する次第である。

昭和二年八月十五日

社團 横濱貿易協會
法人

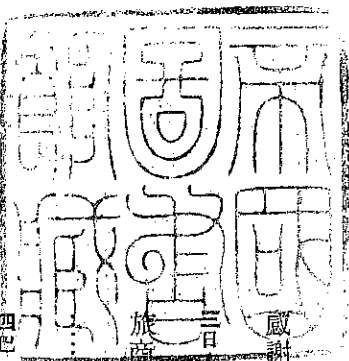
UNITED STATES



- 1 サンフランシスコ市
- 2 エル・パソ
- 3 メキシコ市
- 4 グアダハラハラ市
- 5 パソサエリヨ港
- 6 サン・サルバドル市
- 7 サン・ホセ市
- 8 クリストバル
- 9 パナマ市
- 10 バラキリヤ市
- 11 カラーカス市
- 12 ボエチ・ベソソウラ
- 13 カリ市
- 14 リヤ市
- 15 バルバライソ市
- 16 サンチャゴ市
- 17 ボエノス・アイルス市
- 18 モンテビデオ市
- 19 リオ・デ・ジャネーロ市
- 20 サン・パウロ市
- 21 サントス港
- 22 ミウ・オルリソス
- 23 ハバナ市
- 24 ロス・アンヂェルス市

中南米貿易事情

旅商田中辰之助



- 感謝と希望……………二、
- 羅典亞米利加(一羅典亞米利加とは——二羅典亞米利加の大きさ——
- 三日よりの巨額——四羅典亞米利加諸國の貨幣——五羅典亞米利加諸國の關稅)……………三、
- 旅商の經路(一發着月日と國名——二各國の旅客賃及便乘汽船の國籍——三各國へ入國せんとし……)
- 九、各國貿易狀態と本邦製品(一墨西哥——二サルバドル——三コスタリカ——
- 四巴奈馬——五コロンビア——六ベネズエラ——七玻馬——八秘露——九智利——一〇亞爾然丁
- 一ウルクワイ——二伯刺西衛)……………一二、
- 結論(一歐米諸國と日本との貿易比較——
- 二各國輸入總額と日本商品——三我國の採るべき對策——四雜貨の使命)……………六六。



感謝と希望

日本に於て亞米利加と云へば北米合衆國を想ひ、そして其他の部分（新大陸の）を漠然と南米と考へて然も極めて輕視するの傾向があるやうに見受けられます。是れは誠に遺憾至極の事でありまして、畢竟する處新大陸に對する智識の欠乏と、それに據る考違ひとから生ずる結果であらうと信ぜられるのであります。

コロンブスが最初に發見致しました部分は西印度諸島、それから中米及南米の北部であり、又新大陸に亞米利加と云ふ名を附するに至つたと謂はれて居ります處の新大陸探見紀行文の作者アメリコ・ベスプシオに致しました處で、彼が初めて足跡を印しました所は、やはり中米及南米の北部續いて東部であるのであります。さうして是等新大陸發見の功勞者は何れも皆羅典人種であります。從て其の發見者に對する禮と致しましても、亦發見されて行つた地理的關係から申しましても、私達は亞米利加と云つたならば、直ぐに所謂南米を想起する位でなければならぬ筈だと信ずるのであります。

過去に於ける新大陸對日本の歴史的關係や、又過去及現在に於ける貿易的關係や、現在に於ける國際政局の關係からのみ考へますならば、北米様々と謂つてすましても居られませうが、一旦將來の事を考へたならば、私達は一日も早く、少しでも多く所謂南米との有らゆる交渉を密接にせねばならぬと思ふのであります。

商工省が新大陸の此の方面にも貿易増進を計らねばならぬと力癩を入れ出した事は、此際誠に結構な事

でありまして、そして第一回旅商として本協會から御推薦の榮を得ました私は、元來南米熱鼓吹者の一員であります關係上色々な意味に於きまして、其の責任の重大さを自覺しつゝ、微力ながらも自分としての最善の努力を盡して參つたのであります。

今其の結果を報告申上ぐるに當りまして、私は本協會々員の皆様から非常なる熱の籠つた御援助を頂戴致しました事を深く感謝致しますと共に、其の熱誠を直ちに復た對南米貿易増進に御向けに相成らん事を切望致す次第であります。

羅典亞米利加

從來、所謂南米貿易なるものが至つて振はなかつた原因を考へて見ますと、其の主なるものは此方面に對する研究が足りなかつた事、唯僅に一部分に一寸手を出して見て面白くないと云つては振捨て、しまつた事、其結果が極めて悪い評判を残して南米の眞價を謬らして了つた事等に在ると存するのであります。それで先づ第一に此の羅典亞米利加と云ふものを少しく紹介することを許して頂かうと存するのであります。

一 羅典亞米利加とは

新大陸を大體に於て「サクソン」亞米利加と「ラテン」亞米利加との二つに區分して考へるのが最も普通で且つ便利なのであります。即ち英語を話す「サクソン」人種の領域たる北米合衆國と加奈陀とは前者に屬し、スペイン語を國語（但し「ブラジル」だけは、ポルトガル語が國語）とする「ラテン」人種の領域

たる墨西哥、中米、西印度諸島及南米は後者に属するのであります。従て羅典亞米利加とは南歐の風俗習慣及氣質を有する實に廣大なる地域でありまして、其所には獨立共和國が約廿ヶ國、屬領地が約拾を數ふる所以であります。そして「ラテン」人種の領域でありますが故に、「サクソン」人種の領域たる北米合衆國の如く人種的侮蔑を日本人に與ふるやうな事はなく、否寧ろ「サクソン」亞米利加に對抗する關係上日本人を歓迎して居る地域があるのであります。

二 羅典亞米利加の大き

羅典亞米利加の輕視さるべきものでないことを數字に依つて申上度いと存じます。(但し茲に御注意を願はねばならぬ事は、羅典亞米利加の面積とか人口とかに就きましては、各國の統計及其他の書籍が夫々異つた數字を並べて居ると云ふ事でありまして、是は前にも申述べました通り、羅典亞米利加には約廿ヶ國の獨立共和國があります。然しながら其等の國々の國境に就きましては未だ完全に整理されて居ると云ふ譯ではなく、従て時々國境問題を惹起しては國交斷絶の危機に臨む事さへある如な状態であります。其結果は數字の區々を生ずる譯で、唯今の處何れの數字が眞、何れの數字が非とは申上げ兼ねるやうな次第で、唯大體の概念を得ると云ふ意味に於きまして次に概數を申ぐる事としたのであります。)

國名	面積 (千平方哩)	人口 (千人)	國名	面積	人口
墨西哥	七七〇	一八、〇〇〇	ニカラガア	五〇	七五〇
グアテマラ	四八	二、四五〇	コスタリカ	一八	五〇〇
サルバートル	一三	一、六〇〇	パナマ	三二	四五〇
ホンチニラス	四六	六八〇	マ	四四	三、三七〇

ポルトリコ	四	一、一二〇	ボリビア	七〇〇	三、〇〇〇
ハイチ	一〇	二、〇五〇	智利	二九〇	四、〇〇〇
ドミニカ	一九	九〇〇	ペル	一、一五〇	九、五七〇
コロンビア	四六〇	六、六〇〇	パ	一七七	七〇〇
ベネズエラ	四〇〇	二、八〇〇	ウル	七二	一、六〇〇
エクアドル	一一六	二、〇〇〇	ガ	三、二七五	三〇、六五〇
秘	四六〇	四、五〇〇	伯	八、一五四	九七、二九〇
露			刺		
計			西		
			爾		

此外に諸屬領地がありますけれども、それは茲に省略致します。

日本の全面積が二十四萬平方哩と致しますと、右の數字だけで、羅典亞米利加は既に卅四倍の面積を有する譯で、如何に豊富の面積を持つて居るかと云ふ事が想像して頂けること、存じます。そして其の處女地から産する農産物、鑛産物、林産物、蓄産物は是れから漸く其の産額を増加して行かうと云ふ道程に在るのでありますから、それから獲る利益は今後増大する一方で、購買力も従つて今後増大して行くと云ふ事は極めて明な事實と存じます。又人口の上から見ましても、右の數字だけで九千七百萬大存在して居る譯でありますから、若し全體の人口を數へたならば壹億何萬人と云ふ數になるので、此の人達に一ヶ年壹圓宛の日本商品を使つて頂けると致しましたならば、日本から年額壹億萬圓以上の輸出が出来る事になるのであります。現在では僅に參千萬圓位しか日本商品を送つて居りませんけれども、是は要するに最初にも申述べました通り、吾々日本人が羅典亞米利加を輕視して研究しなかつたと云ふ結果に外ならないのだと信ずるのであります。

日本が人口増加に苦んで居る間に、羅典亞米利加も、ポツ／＼人口が増加して參りますから、購買力も

段々増加して行く次第でありまして。従て其の廣大なる面積に蓄積された富源を想ひ、將來の人口増加と購買力とを思ふ時、私共は對羅典亞米利加貿易を現状の儘に捨て置くなどと云ふが如き事は到底黙して居られないのであります。即ち冒頭に於て本協會々員の皆様が對羅典亞米利加貿易に一大躍進をせられんことを希望致しました以所も此所に在るのであります。

三 日本よりの距離

南米行きは二ヶ月もかゝつて、どうもならんと云ふのが今日、日本に於ける南米輕視の一因であるやうにも存じられますから、茲に羅典亞米利加の主要都市へ郵便物が一體幾日かゝつて行くかを申上げて、御参考に供したいと存じます。即ち現在に於て貨物は定期船によるの外良法がないので、さう早く參らないのでありますけれども、事務上から観るならば、人と通信とは二ヶ月を要せずとも、もつと早く互に往來出来るのであります。そして北米合衆國經由が一番近路でありますから、茲に日本より紐育迄の日數を省略致しまして、紐育よりの日數だけを述べる事と致します。

自紐育	日數	自紐育	日數
至墨西哥市	七日乃至十日	至マニラ市(秘露)	十二日乃至十四日
至グアテマラ市	五日	至ラバラス(ボリビア)	十七日
至サン・サルバドル市	七日	至バルパライソ(智利)	二十日
至サン・ホセ市(コスタリカ)	十二日	至ポエノス・アイレス市	十八日
至パナマ市	七日	至アスンシオン市(パラガイ)	二十二日乃至二十五日
至フランキリヤ(コロンビア)	十二日	至モンテビデオ市(ウルガイ)	十九日
至カラカス市(ベネズエラ)	八日	至リオ・デ・ジャネーロ市	十三日
至ハバナ市(玖馬)	四日	至サンパウロ市	十五日
至グアヤキール(エクアドール)	十二日		

右の日數を見て頂けば日本から羅典亞米利加へ行くには如何しても二ヶ月かゝらねばならぬなどと云ふ考は自然除かれる事と存じます(勿論貨物は別であります)。即ち羅典亞米利加は決して日本より悲觀する程遠い處に在る譯ではないのであります。

四 羅典亞米利加諸國の貨幣

羅典亞米利加諸國に對する北米合衆國の經濟的勢力は拔群なものでありまして、従て弗は貿易上最も普通に通じ且つ便利に使用されて居るのであります。然しながら伯刺西爾及秘露の如く英貨磅の優勢な處もありませんが故に、茲に各國貨幣の單位と米貨及英貨に對する比較とを申上げて御参考に供し度いと存じます。

國名	貨幣單位	英貨	米貨壹弗は	國名	貨幣單位	英貨	米貨壹弗は
墨西哥	ペソ(S)金貨	〇・二〇	二・〇〇六	エクアドール	スケレ(S)同	〇・二〇	二・〇五四
グアテマラ	ペソ(S)同	〇・四〇	一・〇三六	秘露	ソル(S)同	〇・二〇	二・〇五九
サルバドル	コロン(C)同	〇・二一	二・〇〇〇	及リアラ(PR)同		一・〇〇	
ホンデウラス	ペソ(S)金貨	〇・四〇	一・〇三六	ボリビア	ボリビアドノ(B)同	〇・一七	二・一五六八
ニカラグア	コルドン(C)同	〇・四〇	一・〇〇〇	智利	ペソ(S)同	〇・一六	二・七三九
コスタリカ	コロン(C)同	〇・一〇	二・一四九	亞爾然丁	ペソ(S)同	〇・四〇	一・〇三六
巴拿馬	ベルボア(B)同	〇・四〇	一・〇〇〇	パラガイ	ペソ(S)同	〇・四〇	一・〇三六
コロンビア	ペソ(S)同	〇・四〇	一・〇二七	ウルガイ	ペソ(S)同	〇・四六	〇・九六六
ベネズエラ	ボリバル(B)同	〇・〇九半	五・八一	伯刺西爾	ミルレイス(S)同	〇・二三	一・八三〇・七
玖馬	ダラー(D)同	〇・四一	一・〇〇〇				

以上は各國貨幣の金貨の相場でありまして、是等の諸國の内紙幣の價格と金貨の價格とに相異のある處

もありません。其場合其國の紙幣價格と英米貨との相場は時と事情とによつて異なるのでありますから、茲に斷定的には申上られないのであります。然しながら旅商して參つた當時の相場を御參考迄に申し上げますと大體次の通りであります。

國名	紙幣	米貨壹弗ハ	國名	紙幣	米貨壹弗ハ
コスタリカ	コロン	四、〇〇	亞爾然	丁	二、二〇
智利	ペソ	八、二五	伯刺西爾	ミルreis	八、二五〇

各國貨幣と米貨との比較を致すのに何故に特に米貨壹弗を單位として、其の壹弗が各國貨幣の幾何に相當するかと云ふ方法を採りましたかと申しますに、それは日本より商品値段を提出する場合に大抵米貨の弗を以て致しますから、其の弗値段を對手國の通貨に換算して市價と比較して賣買の見込を付けるのに簡單で且つ便利であるが爲であります。

要之に米貨弗と比較して、流通貨幣の價值の低い處程取引に困難を感ずると云ふ事は一般であるらしく思はれたのであります。

五 羅典亞米利加諸國の關稅

獨立共和國約廿ヶ國中巴奈馬を除いて他は全部重量税であります。從て商品の包装に就いては勿論、商品其物の重量に就ても充分留意しないと、意外の重税を課せられて豫想外の損失を招く事があるのであります。

稅率は一體に高率のやうでありまして、羅典亞米利加諸國に於ける輸入業者は何よりも先に商品の稅濟

値段を考慮するのであります。故に輸出業者の立場に在る日本の貿易業者は見本發送の前に、先づ其商品の價格と目方とを比較考慮するの要があると存じます。たとひ如何に値段が比較的安く、且つ品質が良いと申しましても、其の重量が其の値段や商品價值に均衡のとれない程重い物でありましたならば、折角見本を送り、一生懸命に買入の氣をそゝる事に努めましても、結局取引を實現することが出來ずに終るのだらうと思はれるのであります。此の事は既に御熟知の方も御座いませうが、今回旅商として廻りました國々に於て、例外なしに體驗致しました事でありまして特に茲に申上ぐる次第であります。

また商品の種類によりまして、正味重量によるか、或は包装込み重量によるかと云ふことは勿論ありませんが、其外に茲に最も注意すべき事は品名を表はすべき言葉、即ち文字の使ひわけと云ふ事でありませう。國に依りましては稅率表に記載なき文辭を使用したる場合、罰金を課せられると云ふ鳥渡非常識的な事がある處も有ると聞及んで參りましたし、それから同一商品でも、それを表明する文辭の如何に依つて、稅率に多少の差異がある場合が多いとも聞及んで參りましたから、顧客より特に指定された品名の辭句は充分尊重して之に従ふやうに努めねばならぬのであります。是等の事も既に御熟知の方も御座いませうが、爲念御參考迄申述ぶる次第であります。

旅商の經路

羅典亞米利加と云ふもの、概念は前述の事柄によりまして、大體御會得を得ましたと存じますから、今度は旅商して參つた道順や、旅費や、尙ほ其序に立寄つた國々に就いての概説を申上げて見度いと存じま

す。即ち羅典亞米利加を國別に從つて大雜把ながら解剖して見て皆様の此の方面に對する感興を喚起して見度いと存するのであります。

一 發着月日と國名

大正十五年八月十日	横濱出發
同 八月廿二日	米 國 着 (日本ニ領事ノ駐在セザル中米諸國へ入國手續ヲナス爲メ桑港ニ二日滞在)
同 八月卅一日	墨 國 着 (墨都滞在八日間、此間見本展示)
同 九月十一日	同 國 發
同 九月十八日	サルバドル國着 (サンサルバドル市滞在三週間、此間見本展示及市場調査)
同 十月十二日	同 國 發
同 十月十九日	コスタリカ國着 (サンホセ市滞在十二日、此間見本展示)
同 十一月二日	同 國 發
同 同月三日	巴 奈 馬 國 着 (バナマ市滞在十日間、船便ノ不定期ノ爲メ豫定日程ヨリ大分遅延シ且ツ更ニ豫定變
同 同月十三日	同 國 着 (更ノ都合生ゼシ爲メ今後ノ船便調査ヲナス)
同 同月十五日	同 國 クリストール港發
同 同月十五日	コロンビア國着 (バランキリヤ市滞在二週間、此間見本展示)
同 同月十四日	同 國 發
同 十二月四日	ベネズエラ國着 (カラカス市滞在三週間、此間見本展示)
同 同月廿五日	同 國 發
同 同月卅一日	巴 奈 馬 國 着 (コロン市滞在七日間、便船ヲ待ツ、此間絹物部陶磁器部ハ「カリ」ニ向フ)
昭和二年一月七日	同 國 發 (バナマ運河通過)

同 同月十一日	秘 露 國 着 (黒馬市滞在十五日間、此間見本展示)
同 同月廿七日	同 國 發 (カリ市ニ行キタル絹物部及陶磁器部ト合體)
同 二月二日	智 利 國 着 (バルパライソ市滞在十一日間、此間見本展示)
同 同月十四日	同 國 首都山茶郷市着 (滞在一週間、此間市場調査)
同 同月廿二日	同 國 發 (アンデス山脈横斷)
同 同月廿三日	亞爾然丁國着 (ボエノス、アイレス市滞在廿日間、見本展示及市場調査)
同 三月廿二日	同 國 發
同 同月廿三日	ウルガイ國着 (モンテビデオ市滞在十五日間、此間見本展示)
同 四月八日	同 國 發
同 同月十三日	伯刺西爾國着 (リオデヂャネロ市滞在一週間、市場調査)
同 同月廿一日	同 國 着 (ペウロ市着 (滞在十日間、見本展示)
同 五月一日	同 國 着 (サントス港着 (滞在十日間事務整理)
同 同月十日	同 國 發 (日本船モンテビデオ丸便乗)
同 同月廿八日	北米合衆國ニウオルリンス着、即日同地發
同 同月卅日	同 國 着 (ハバナ市滞在十五日間、市場調査)
同 六月十五日	同 國 發 (モンテビデオ丸ヲ返フ)
同 同月廿七日	「ロスマンゼルス」ニテ一行モンテビデオ丸ニ便乗
同 七月十四日	横 濱 着

即ち三百二十九日を費しまして、十二ヶ國十五都市を經て参つたのであります。見本展示を致しました

都市は前述致しました通り、十都市でありまして、其の一ツ一ツの様子は既に交易第五十六號（本年四月發行）に於て報告申上げた通りであります。

二 各國間の旅客賃及便乗汽船の國籍

國名	日數	國籍	旅費	國名	日數	國籍	旅費
日	一六	日本船	三〇〇、〇〇	秘	七	智利船	八五、〇〇
米	六	汽車	一一四、〇〇	智	二	汽車	一一二、〇〇
墨	七	北米船	一二三、九一	亞	一	亞國船	一〇、四〇
サルバドル	七	同	八〇、〇〇	ウルガイ	六	北米船	六五、六〇
コスタリカ	一	同	二五、〇〇	伯	六	日本船	三一、九〇
巴奈馬	二	和蘭船	三〇、〇〇	米	三	北米船	四九、〇〇
コロンビア	六	和蘭船	四〇、〇〇	玖	三	同	五六、四五
ベネズエラ	七	佛國船	七〇、〇〇	北米内	三	汽車	八一、五〇
巴奈馬	七	英國船	一四五、〇〇	（コウオルリンス間）			
露	五	英國船	一四五、〇〇	（ロシアアンヂェルス間）			

右に申述べました日數には發着の當日が含まれて居るのであります。又旅費は各國間の汽車賃及汽船賃だけを申上げたもので、一國內に於ける、例へば港から目的都市行、或は其他の陸上移動に對する汽車賃或は自動車賃は含まれて居ないのであります。荷物の運搬賃の含まれて居ない事も亦勿論であります。それから右の日數の内、伯日間六十五日は大阪商船會社の定期船の要する日數でありまして、私共は其の便乗致しました「モンテビデオ丸」が北米合衆國の「ニウオルリンス」に着きまして、其所から又一二の港を経て最後に「ロシアアンヂェルス」を出帆致します迄に其間一ヶ月の日數を要する事を利用して玖馬に參つたのでありますから、右に申述べました日數の内、玖馬行に要しました日數だけは伯日間の日數内に含まれて

了ふべきものと御承知置きを願ひ度いのであります。

それで前項に申述べました、旅程日數三百三十九日の内、凡そ百三十日間は海上及陸上の移動に要しました日數で、二百十日間が見本展示及市場調査に費された日數であります。そして人間の動くだけの旅費が約二千弗を要するものと御承知願へば、今後御出掛けになる方が豫算を御組みになる場合多少御參考にならうかと存じます。

便乗汽船の國籍を特に申上げましたのは、是を通じて各國の活動振を御想像願はんと欲したからであります。時間が許しますならば、各國商船の活動系統と、其の注目しつゝある方面とを申上げて御參考に供し度いのであります。唯今は旅商の結果を報告申上ぐるのが主でありまして、自然其の餘裕がないのであります。兎に角、羅典亞米利加に對して各國が非常の活躍をなしたと云ふ事だけは充分御記憶願ひ度いのであります。

三 各國へ入國せんとして

海外旅行を致しまして、初めて入國しやうとする國に對する感想は、其の入國の際に受けます第一印象が何處までも土臺となるやうに感ぜられるのであります。それで私は今度旅商して參つた國々の感想を逐一申上げます代りに、其の國々へ入國しやうとして受けました待遇や、印象を申上げまして、皆様が私の言葉によつて御造りになる感想を、それが即ち私の感想でありますと申上げ度いのであります。

八月廿九日正午頃「エル、パン」で北米の汽車を捨て、墨西哥國有鐵道に乗り換へました。そして「エル、パン」と河を挟んで並んで居ります「シウダッド、ホアレス」驛に這入りますと構内で停車中に移民

官と税關官吏との検査を受けねばならぬのであります。北米の「サクソン」人種の傲慢さのない、如何にも私共と從兄關係でも持つて居相だなど云ふ感じを與へる人達が、ぞろ／＼とやつて参りまして、そして私達の遠來を町重に歓迎して呉れたのであります。是れは當横濱市に駐在して居られます、墨國總領事ルイデル氏が私共の横濱出發と共に私共の使命を本國政府に打電なされて、墨國に於ては何分の便宜を取計らるゝやうにと親切なる御手配をなすつて下さつた賜であります。それで中央政府からも當地へ宛て既に訓電を發して置かれたのであります。元來が極めて親日の國である。其の上に、かうした手配がされてありましたので、私共は本當に親みのある又温みのある待遇を受けたのであります。之を心の中に感謝しつつ、直ちに墨都へ向つて更に三日間の汽車旅行を續けて行つたのであります。一行中西班牙語のお解りにならない方さへも、何となく親類の内へ來たやうで心安さを感じると申されて、喜んで居りましたが、是れが即ち實際に墨西哥全體に溢れて居ります親日氣分に包まれた結果に外ならない證左であります。我國に於きましても、是非共此の温みのある墨國民の感情に對しては感應する處がなくてはならぬと痛感致したのであります。

墨國滞在が十日間位に過ぎなかつた事は、色々の意味に於きまして非常に心残りに感ぜられた事でありましたが、船便の都合で如何共致し難く、九月十二日墨國太平洋岸の要港マンサニリヨ港から北米船の「エクスアドール」と云ふに便乗しまして、「サルバドル」國へと向つたのであります。此邊の海岸は一體に非常に暑い所でありまして、「グアテマラ國」の「チャンペリコ」「サン、ホセ」と云ふ二港、それから「サルバドル國」の「アカントラ」と云ふ港を経まして、九月十九日の早朝「ラ、リベルタッド」港に着いたの

であります。

一帯に鬱蒼としました緑樹の滿ち／＼た小丘が、海の際迄迫つて居ります處の仲々に感じのよい港であります。船の上の檢疫や移民官の取調べもほんの型の如くに済まされて、大きな浮舟に乗移つて陸へと向つたのであります。此港に上陸しますのには、本船から下船するのにも、亦舢舨から棧橋に上陸しますのにも、共にキンチに依つて、がら／＼と荷物なみに積下ろされたのであります。流石に慣れたもので實に器用な設備が出来て居りました。見本其他の荷物が全部棧橋に揃ひますと、税關長は自ら出て來られまして、そして私共の來訪を非常に歓迎され、且つ中央政府から訓電も來て居る事でありますから、直ぐ其儘首府に向つて御出立下さるやうにと、極めて懇切な待遇を受けたのであります。私共は全く事の餘りに意外なのに驚いたのであります。要するに是は私共が墨西哥市に滞在して居りました間に色々御世話下さいました越田代理公使が、更に私共の行く先々の事を、嘗て御自身が此地方を旅行なされた時の體験に願られて、色々御心配下さいまして墨都に駐在せられて居ります各國の公使、或は領事に私共の使命や目的をお話しになり、そして私共の入國其他に就き充分便宜の取計を受け得られるやうにと御手配下さつたが爲であります。私共は非常に感謝して居ります次第で、是は先刻申し上げました當横濱市駐在の墨國總領事ルイデルス氏と共に、兩氏に對して本協會からも充分感謝の意を表して頂き度いと存じて居る處であります。即ち我國の貿易増進の目的を以て出掛けて参りました私共の行動を、殊に旅程日數に制限のある際一分一秒たりとも惜まねばならぬのでありますから、其の點に於て斯の如く便宜の處置を受け得られるやう御盡力下さいまして、そして私共の行動を充分御援助下さいました事は、直ちに又我國の貿易増進の御援

助をなすつて下さつたも同然で、是は本協會のみならず我國全體としても充分感謝の意を表して然るべきことかと存ずる處であります。

越田代理公使の御援助を感謝すると共に私共は又墨都に於ける新聞及雑誌の隠れたる援助を見逃す事は出来ないのであります。それは即ち私共の墨都訪問と共に新聞及雑誌が非常なる歓迎と宣傳とをして呉れたからであります。そして其の記事が、同文同種の中米及南米の諸國に反響を興へない譯はないと信ずるからであります。私共は其の旅商最初の國に於て斯如き援助を背景とする事を得ましたが爲に、此の「サルバドル」に於ても、入國早々唯今申上げました如な厚遇を受け得られた事と信じて居ります。殊に滞在中は大統領に拜謁するの光榮も得ましたやうな次第で、あらゆる方面からの援助を受ける事が出来たのであります。

首府の「サン、サルバドル」市は海拔二千尺餘の所に在りますので、氣候は決して悪くはなく住みよい所であります。五月から十一月迄は雨季（日本の雨季の如に降り續けると云ふ意味ではなく雨が多く降ると云ふ意味であります）でありまして、此の雨季のことを俗に冬と云ふて居ります。従て冬と云ふことは吾々日本人とは少し考が違ひまして、寒いと云ふ意味ではなく、雨が降る季節だと云ふ意味でありますから誤解のない様に御注意を願ひます。是は中米全體を通じて同じ事でありまして、私共が着きましたのは九月半でありますから、丁度冬の最中で、氣温は日中で最高八十二度位でありました。十二月から四月迄の夏でも決して暑くはなく、唯冬と反對に干燥期となるだけなのであります。一ヶ年平均温度華氏の七十六度であると云ふ處から見ましても、此の市が如何に良い所であるかと云ふことが御了解得られやうかと

存じます。

元來熱帯と一言申上げますと、直ぐに唯熱い處だとのみ御考になる方が多う御座いますが、それは早合點でありまして、地勢と云ふものを無視した時の考へ方であります。即ち同じ熱帯でも高山の峯には永遠の雪が積つて居るやうな次第で、高さに伴つて温度は異なるものであります。従て中米及南米の北部の事を御考になる時には其の位置は成程熱帯に屬しては居るが、大きな山脈が縦横に走つて居ると云ふ事をも御考に加へられて判断なされると、其所に高さに伴つて温帯氣候も有り、寒帯氣候も有ると云ふ事が自然御了得になられるかと存ずるのであります。即ち中米及南米の北部諸國の主府が何れも皆高い山の中に在るのは是れが爲であります。又其の産物の豊富なる所以も是が爲なのであります。従て中米や北部南米の都會に就きましては日本の内地で想像され易い如な、心配される所ではないと云ふ事を先づ充分御了解願つて置き度いと思ふのであります。

「サン、サルバドル」市が前述致しました通り住みよい所であると同じやうに、否それ以上に「コスタリカ」國の首府「サン、ホセ」市はよい所であります。

太平洋岸の港「プンタレーナス」から五六時間汽車で山腹を紆り登つて行きますと、海拔三千八百尺餘の高さの所に此の市が在ります。四面山に圍まれた落着きのある市で、人口五萬三千であります。不斷に歐米の漫遊客が参りますだけに、實に綺麗な街並であります。

此の國の内務卿は非常な活動家でありまして、私共の事に就きましても、色々と親切に御世話して下さいました。元來此國は東洋人の入國を許さない事になつて居るのだ相であります。私共の入國に就きま

しては勿論、見本其他の荷物に就きましても、次の如き非常な御世話をして下さつたのであります。

最初「サルバドル」に於きまして、船の延着の爲め思はぬ旅程日數に番狂せを生じたので、色々相談の結果「サルバドル」から巴奈馬へ直航しやう、そして巴奈馬で充分各地間の船便を精査（日本で出来なかつたので）して全體の旅程に番狂せの起らないやうにしやうではないかと云ふ事になつて、私共は「コリント」と云ふ小さな北米船に乗り込んだのであります。處が此船は沿岸航路船でありまして、ホンデユラス國の「アマバラ」とか「ニカラグア」國の「コリント」とか云ふ如にちよい／＼小さな港に寄つて行きます上に、「コスタリカ國」の「プンタレーナス」に着きますと、先きに這入つて居りました獨乙船が雨の爲めセメントの荷役が出来ずに居り、しかも同船の荷役が済まねば、私共の乗つて居る船の荷役も出来ないと云ふ仕儀になつて、従て私共は「プンタレーナス」を何日に出帆出来るか解らないと云ふ事になつたのであります。そこで十月十九日に私共は鐵道で「コスタリカ」を横斷し太西洋岸に出で、其の方面から巴奈馬に行かうと云ふ決心をしまして上陸したのであります。荷物を船に残して置きまして、私共は「コスタリカ」通過の機を利用して市場の調査だけをして行かう、さうすれば太西洋方面から巴奈馬に這入つて行く時分に丁度荷物が着いて居る事であらうと思ひましたので、「サンホセ」市に參りました時には見本其他の荷物は持つて居なかつたのであります。處が、市の様子から見ても、又色々商人の説く處を聽いて見ても、見本展示をなすべき充分の價值ある所と領れましたので、早速荷物を取寄せるべき手段を講じたのであります。其時であります、入國の時種々御世話になつた關係から此の事を内務卿に相談致しますと、税關の事に關しては大藏省を通じて訓電を發せられ、船に對しては直接打電されて私共の見本

及其他の一切の荷物を直ちに積下ろして税關に渡し、其儘「サン、ホセ」市に送るやうにと御手配をなすつて下さつたのであります。是は餘程親切と厚意とがなければ出来ない事であると信するのであります。私共は復た此の國へ入國致す際にもかうした好遇を受けたのであります。

巴奈馬へ入國致します時にも何等の困難もなく、「コロンビア」へ參りましても極めて好遇され、「ベネズエラ國」へ着きますと、此所では又餘りの厚遇さで却て感謝のしやうがない程なのであります。十二月四日の夕暮遅く私共は「ラ、グアイラ」と云ふ港に着きました。すると税關から英語の話せる通譯官が迎に船迄來られまして、私共と荷物とを早速税關の舳舟で上陸させて呉れられ、そして其夜は港から少し離れた「マクート」と云ふ別荘地の一番イ、ホテルに案内して下さつたのであります。翌日宿の勘定を支拂ふとすると、既に外務省の指定で支拂濟であると云ふに至つては寧ろ私共は當惑の極、如何していかのか解らなかつたやうな次第でありました。滞在中に陸軍士官學校の卒業式に招待され、大統領の就任紀念日には祝賀競馬の會場に招待される等、私共はあらゆる厚遇と援助とを受けたのであります。

在留邦商と移民の多い秘露に於きましても、最初の私共の心配は全くの杞憂でありまして、誠に氣持よく無検査の儘見本其他の荷物の通關が出来たのであります。

智利は非常な親日の國であります關係上、私共を双手を擧げて待つて居たと云ふ如な状態で、入國させて呉れたのであります。殊に此國は南洋隨一の軍國でありますが、其國へ私共が着きました時には如何した新聞電報の間違か日本の海軍大將及陸軍大將を混へた六名の一行が入港すると云ふ風に新聞紙上に報道されて居たので、非常に澤山の人々が波止場に立つて私共の到着を迎へて居て呉れたのであります。誠に

氣恥しかつた思出の一つであります。

二月廿二日朝七時、南米でも一番の氣候の地と云はれて居ります。智利の都を、折柄晩夏の朝風に心地よく吹かれながら、あの有名な「アンデス」山脈横斷鐵道列車で出發したのであります。流石に「アンデス」は雄大其物の山脈であります。晝下り頂上に達しますと、夏とは云ひながら大雪が紛々として飛んで居りました。日暮も遅く亞爾然丁の「マンドーサ」と云ふ町に着き、此所で汽車を換へて夜の九時に發ちますと翌日一日見渡す限りの平原である「バンバ」の野を走るのであります。そして夜の八時頃新しき巴里の稱ある「ボエノス、アイレス」へと到着致しました。

石井商務官や在留邦商の主なる方々の出迎を受け、翌日は石井商務官の御援助で税關長の無検査通關の許可證を貰ひ受けまして、此所でも些したる困難もなく一切の入國手續が終つたのであります。

「ウルグアイ」國へは古谷公使が既に同國の關係當局と前以て御打合せ置き下さいました關係上、非常に簡単に且つ氣持よく入國致したのであります。殊に三月の末に古谷公使が特命全權大使として、現大統領の就任式に列せられました時に、侍從武官として古谷公使に附かれました「ターグレ」と云ふ親日家の人が始から終り迄一切の面倒を見て下さつたので、私共は非常な力強さを感じて活動する事が出来たのであります。此國も本當に日本人を歓迎して呉れる國の一つであります。

伯爾西爾へは色々の事情を考慮致しまして、「リオ、デ、チャネイロ」から入國する事にしたのであります。幸ひ大使館や、領事館の方々に御盡力を頂きましたので、此所でもほんの型だけの検査で見本其他の荷物の通關が出来たのであります。

「リオ、デ、チャネイロ」は市其物が大きな公園であると思ひます。此所に一週間滞在しまして「サン、パウロ」へ参りました。夜の八時頃の急行に乗つて、翌朝の九時頃に着いたのであります。流石に二千五百尺からの高さに在りますから「リオ」よりは餘程涼しいなと感じたのであります。仲々に活氣の有る市であります。私共は未だ〳〵日本商店が殖えてもいゝがなと思ひました。農業移民ばかりではいけない。商業移民も工業移民も資本移民も、もつと〳〵盛に此の地へ行くやうにならねば、本當の日本の貿易發展は望まれまいなと感じたのであります。

五月卅日の朝、船の上から「ハバナ」市を見ました時、其の建物の新しく、高壯で、全く北米化した姿で、大きな市であるぞよ、と云ふ輪廓さを持つて居ることを感ぜられたのであります。「コロンブス」が最初の時に發見しました所、そして此國が獨立する迄「コロンブス」の遺骨が埋藏されて居りました所であると思ひますと、何となく昔懐しい感情が込みあげて参りまして、此の青い樹木の至つて少い、見るからに又實際に於きましても本當に暑い所に、非常に親み易さを感じられてならなかつたのであります。

然しながら此國は北米の色々の姿が——特に何々とは申上げませんが——侵入して参つて居りますから私共の入國に就きましても其の片影が少しばかり窺はれたのであります。市に這入つて見ますと、主なる輸入業者は概ね西班牙人でありまして、紙幣は弗であるが言葉は西班牙語を使はねばならぬと云つた調子の處に、又何とも言へない心安さが存在して居りまして、氣持よく市場調査を續けることが出来たのであります。

偕て斯様に永々と各國への入國狀況を申上げて参りましたが、之を煎じ詰めますと、何處の國に於き

ましても、非常なる便宜と好意と歓迎とを受けて参つたのでありますと云ふ事になるのであります。是は一番最初にも申述べました通り、羅典亞米利加の諸國が吾々日本人に對しまして、非常なる敬慕と好意との念を持つて居ると云ふ事の、如實に現れました一つの證據であると申上げる事が出来るのであります。私は今茲に改めて各國の好意に對して感謝の意を表しますと共に、又我が日本に於きましても、是非同じ様に此等の諸國に對して充分の好意を以て、臨まれん事を切望してやまない次第であります。殊に當横濱市は、我が日本へ入國致します處の關門の一つでありますから、當市に於て受けます最初の印象は、是れやがて我が日本全體に對する感想の土臺となりますので、極めて重大な意義を持つて居るのであります。従て私は本協會の會員諸氏の積極的御盡力によりまして、我が横濱市が當市に來らるゝ外人に對して最も良好なる印象を與へるやう、此上一層の御努力あらん事を熱望致す次第であります。

各國貿易狀態と本邦製品

是れから旅商して参りました諸國の貿易狀態と、其の國へ日本品が幾何位輸入されて居るか、又其の日本商品は他國製品と如何なる狀態で競争をして居るかと云ふ事を、其の國々で發表されました統計書に據て申上げて見度いと存じます。

統計に表はれました數字(金額)は便宜上日本貨に換算して申上げますが、其の金額は何から採られたものであるかと云ふ事に就きましては、國々で區々でありまして、或ものは領事インボイス面に記載された金額に據つて居り、或ものは仕向地着値段(即ちCIF値段)に據つて居り、或ものは税關査定額に據

つて居り、或ものは何等明記して居ないので不明のものもあると云ふ譯で、全く一定して居ないのであります。従て明記してあるものだけ其の都度此所に申上ぐるの外ないのであります。

一、墨 西 哥

一九二五年度の統計に據りますと、外國貿易總額は凡そ拾億七千餘萬圓でありまして、輸出超過額は約參億圓になつて居ります。で今主なる國別に従ひまして輸出入金額を申上げますと。

對 手 國		輸 出 金 額	輸 入 金 額	計	
北 米	五、一六、八六三	二、七四、四九六	七、九一、三五九	加 奈 陀	三、六六八
英 (本)	四、四、六三七	三、〇、六六五	七、五、三〇二	瑞 西	四、一四二
獨 逸	三、三、〇一九	二、九、八六八	六、二、八八七	伊 太 利	五、九一
佛 蘭 西	一、一、八四三	二、〇、七〇七	三、二、七五〇	印 (英)	六、三一
和 (本)	一、〇、七五一	一、五、五四	二、五、二五	日 本	三、〇
白 耳 義	八、四、三三	二、九、九九	一一、四、三二	其 他	五、一、〇〇〇
西 班 牙	一、〇、一九	八、一、三一	九、一、五〇	合 計	六、八、二、四八五
				對 手 國	輸 出 金 額
				加 奈 陀	三、一四六
				瑞 西	四、一四二
				伊 太 利	三、〇〇九
				印 (英)	二、〇六一
				日 本	一、四九四
				其 他	八、五、二四
				合 計	三、九〇、九九六

品 目		輸 出 金 額	輸 入 金 額	計	
食料及飲料品	五、五、七六八	六、三、五五四	一一、九、三二二	金銀及金銀貨	一、三、五、七六六
原料及半製品	四、八、〇六六	四、二、三四八	五、二、八、四一四	動 物	一、二、四、九
既 製 品	三、六、三六	二、六、九、六四九	二、七、三、二八五	合 計	六、八、二、四八五

品 目		輸 出 金 額	輸 入 金 額	計	
金銀及金銀貨	一、三、五、七六六	九、八、八八九	一、四、五、六五五	動 物	五、五、五、五六
合 計	六、八、二、四八五	三、九〇、九九六	一、〇、七、三、四八一		

と云ふ事になつて居ります。で今度は此國が何を輸出し、何を輸入するかと申しますと、先づ最も總括的な品別に於きまして次の通りであります。

即ち原料及半製品を輸出して既成品を輸入して居るのであります。

次に金額上から見まして重要な輸出入商品に就いて少しく申上げ度いと存じます。

商 品 名	輸 出 金 額	摘 要
石 油	二九二、一三〇	七割五歩餘は北米へ、續いて玖馬、英國等へ輸出さる
銀	一三五、七四四	七割餘は北米へ、次いで各一割宛英、獨へ輸出さる
鉛	六七、九九四	四千四百萬圓は北米へ、次いで英、獨、佛、白へ略々同額宛輸出さる
銅	三二、六五四	北米へ輸出さる
紡織用植物纖維	三一、四二〇	九割は北米へ輸出さる
珈 琲	二四、四二九	六割は北米へ、三割は獨逸へ輸出さる
豆 鈔	一五、カ六九	白耳義を第一とし、北米及佛、獨、和等へ輸出さる
新 鮮 野 菜	一三、七〇三	八割餘はトマトで全部北米へ輸出さる
金	九、九五七	殆ど全部北米へ輸出さる
棉	八、九二三	六割餘は北米へ、次いで英國へ輸出さる
樹 脂 及 護 膜 類	八、四〇〇	殆ど全部北米へ輸出さる
商 品 名	輸 入 金 額	摘 要
機 械 類	四〇、三八七	九割近くは北米から、次いで獨、英から輸入さる
鐵 及 鋼 製 品	二六、一一二	主として北米から、次いで獨逸からも輸入さる
貨 車 及 自 動 車	二三、二五七	九割迄北米から輸入さる
綿 織 物	一九、九六六	主として英米から輸入さる
食 用 ラ ー フ	一六、八七七	殆ど全部北米から輸入さる

石 油 一、二、七八七 同 右

化 學 藥 品 一〇、九五五 主として北米から、次いで加奈多、獨逸から輸入さる

護 膜 製 品 一〇、一二九 六割は車輪用品で、主として北米から輸入さる

木 材 九、二九七 九割五分は建築材で、北米から輸入さる

鐵 棒 及 鐵 板 類 九、一八三 主として北米から、次いで英國から輸入さる

英 大 小 類 六、四一九 四割は靴下で其の大半は北米から、其他の製品も主として北米から次いで獨逸から輸入さる

是で見ますと、非常なる石油と銀の産出國であつて、其の投資家が北米である事もよく窺はれる事と存じます。現に貳億九千萬圓からの石油を出し乍ら、壹千參百萬圓に近い物を又た北米から輸入して居るのであります。其他の商品を見ましても北米が群を抜いて大きい貿易額を持つて居る事も當然な事だと御了解に相成る事と存じます。

然らば十二番目の貿易順位に立つて居る日本は、如何なる商品を以て貿易をして居りますかと申しますに、此の國からの輸出と致しましては

商 品 名	數 量	輸 出 金 額	商 品 名	數 量	輸 出 金 額
アスファルト	一、一六九	二九、二二五	ベリキート(小島)	四四九	二九二
鵜鴉及七面鳥等	一六九	四八四	合 計		三〇、〇〇一

と云ふ状態で誠に御話にならないのであります。此の國の産物や、輸出商品を詳細に調べて見ますと、日本の産業にとつてもつと大切な必要品が澤山有る如に思はれるのであります。夫等は全く此の國に就いての眞面目な研究の足らなかつたと共に等閑に附せられて居たのであります。

日本からの輸入に就きましては六十一萬圓の絹織物、二十二萬圓の籠甲、象牙、貝細工品、十九萬圓の玩具、五萬圓の陶磁器類を主要なる商品として居るのであります。

唯今は雜貨としての報告を主に致して居るのでありますから、此の方面の日本商品に就いて少しく數字を並べ、そして他國製品との比較を御覽に供し度いと存じます。尙ほ一九二四年度分も序に申上げて、兩年度に於ける日本製品の増減の狀勢と、全體の増減の狀勢とを比較なさらむとする方の御參考に便し度いと存じます。

綿製洋傘類

日	一九二四年	一九二五年
米	一九六	七七二
佛	四、二六八	六、四八七
他	一、二一〇	三、七三五
計	一、五九八	一、二一八
日	七、二七二	二二、二二二
西	一九二四年	一九二五年
米	四、一二七	二二、六九二
佛	八、一七四	一〇、七四七
他	四、七四九	五、六九八
計	四、五九七	四、五〇四
日	四、八九七	八、八四〇
西	二六、五四四	五三、四八一

鏡類(七五厘迄の大きさの物)

日	一九二四年	一九二五年
米	九八二	六、七四九
佛	一〇六、二六三	二四四、三六〇
他	三八、〇〇一	四〇、一六四
計	一八、五一七	一〇、五四三
日	一六三、七六三	三〇一、八一六
西	一九二四年	一九二五年
米	三、八二五	五、七三四
佛	四一、〇一三	七五、八一五
他	二四、二〇二	三八、五三〇
計	一七、一七六	一七、七二三
日	一七、六三七	二〇、九八一
西	九八、八五三	一五八、七八三

麥稈眞田類

日	一九二四年	一九二五年
米	四六、八三二	五四、七六八
佛	二二、七〇七	二、九八六
他	一三、一四一	一七、二三五
計	九、八三九	四、一八五
日	九三、八三三	八一、五七八

セルロイド及ゴム製品

日	一九二四年	一九二五年
米	一〇五、〇四二	一九六、五五八
佛	一、三七二、二四八	一、六八五、八六九
他	四八〇、三〇七	四五〇、〇〇〇
計	四四〇、七九八	七五二、九四〇
日	五三、二九九	一四五、〇七七
西	二、四五二、六九四	三、二三〇、四四四

紙類

日	一九二四年	一九二五年
米	一、三一四	二、四〇四
佛	四六、八三二	五四、七六八
他	二二、七〇七	二、九八六
計	一三、一四一	一七、二三五
日	九、八三九	四、一八五
西	九三、八三三	八一、五七八

紙製品

日	一九二四年	一九二五年
米	六、六七三	一一、〇九九
佛	一、三四二、四四七	一、八三六、九二四
他	二八三、八五三	四〇五、七三〇
計	三三、六七五	五一、六二一
日	二〇、四六三	四一、六一五
西	四四、〇八〇	七七、八八三
佛	一、七三一、一九一	二、四二四、八七二

木製品

日	一九二四年	一九二五年
米	一三、〇八四	二五、七三一
佛	三七三、〇〇一	四九四、一六九
他	二〇〇、一四五	二九八、〇〇八
計	一〇三、〇三〇	九八、九三二
日	二六、〇七五	一〇、〇四七
西	八八、九五三	一一六、〇八〇
佛	八〇四、二八八	一、〇四二、九六七

天然護膜及樹脂類

日	一九二四年	一九二五年
米	一九二四年	一九二五年
佛	二一、九六五	二二、〇八八

スリッパ類

日	一九二四年	一九二五年
米	一九二四年	一九二五年
佛	一、〇九二	一、九八二

計他印獨佛米

(英)

一三二、六三六
九二、三一六
七八、九五〇
四三、二七四
七七、九八九
四四七、一三〇

一一三、九三〇
三〇、八四一
九五、九七六
一八、一八一
五八、四四九
三四〇、四六五

花薙及野草薙類

計他佛英米日

一九二四年
七、七四七
三九、一四四
一二、七二九
七、六三四
二二、〇〇〇
八九、二五四

一九二五年
八、四七六
二四、六一九
三六、〇〇五
四二、一三五
一七、四四八
一二八、六八三

具、角、骨細工品並物

計他伊米佛獨日

一九二四年
一二、九四五
九六、三五八
五六、七八九
三三、八三六
九、〇〇七
一四、二一〇
二二三、一四五

一九二五年
八、六七八
八四、六一五
六三、四八四
二七、二〇二
三三、五八四
七一、九二四
二八九、四八七

計他支佛加米

七六一、七八八
一四、九三〇
七、五八二
二、二六五
八、九二三
七九六、五八〇

一九二五年
九八〇、六一六
五五、六九〇
二三、二四九
二、二五二
九、三四八
一、〇七三、一三七

計他獨米佛日

一九二四年
六〇、〇〇八
七三、五三〇
四八、〇〇四
二九、九一三
六、四二六
二一七、八八一

一九二五年
二二二、一三二
五八、一六二
四八、一三五
五〇、五六八
六、九四六
三八五、九四三

鐵及銅製品類

計他瑞英佛獨米日

一九二四年
三、三〇三
五、一九九、一〇五
一、六三三、〇二二
二七七、七七三
一六一、七八〇
四三、二四〇
一四三、三九四
七、四六一、六一七

一九二五年
四、六九二
六、三七五、九二二
二、四三四、四〇一
二一〇、八一七
二二一、一五三
三六一、九一九
一二三、八〇三
九、四〇七、七〇八

革製品

計他西奧英獨佛米日

一九二四年
三、四七一
三二九、六四三
九二、二八九
七四、一六一
六二、五二六
四四、九八六
二二、一〇八
一六、三三五
六四四、五一九

一九二五年
三、七二六
六一五、二二二
九〇、五二三
九六、一八七
一一〇、五二四
一八、〇七八
一一、九二五
二二、六七九
九六九、八五四

其他の加工品

計他佛獨米日

一九二四年
三、六三一
四四六、七六七
一八二、七九七
八七、九三一
四七、三一三
七六八、四三九

一九二五年
二、三〇一
五八六、四六四
二四〇、九四八
九八、一八一
五〇、九七三
九九九、五六七

籐其他の細工品

計他獨米日

一九二四年
四、三一五
三九、〇八七
二〇、六七三
二一、三七〇
八五、四四五

一九二五年
七、九五四
五二、二六五
二一、六七五
一五、九四六
九七、八四〇

籐寸類

計他支米日

一九二四年
五三八
三七、一九〇
八八八
三六三
三四、九七九

一九二五年
一、八九七
四五、三二二
八
一、二六八
四八、三九五

統計に據りました現狀は大體に於て右の如き状態であります。

此の國の輸入總額は三億九千萬圓で、其内既製品の輸入額だけは約二億七千萬圓であります。それに對して、日本からはたつた一百五十萬圓しか賣込んで居らぬのであります。其の賣込高の少ない理由は一

體日本商品の値段が高い爲なのか、宣傳が足りない爲なのか、或は日本商品の中、賣込み得べき商品の數が少ない爲なのか、即ち此の國に不向きな物ばかりを製産して居るが爲なのか、さうした點を研究する事が一番大切な問題なのであります。

是等の問題を解決する一つの手段として、此の國が現在輸入して居る商品に就て一々研究して見る事が一番よいのでありますけれども、それは到底時間が許さない事でありますから、今日は單に日本商品の現状を御話致しまして、そして現状は極めて貧弱なものであるから、是非共今少し發展させねばならぬと云ふ事を御承知願ふ事に止めて置き度いと存するのであります。

二、サルバドル

一九二四年度の外國貿易總額は七千六百餘萬圓でありまして、輸出超過額は貳千餘萬圓を示して居ります。國別に従ひました輸出入金額は

對手國	輸出金額	輸入金額	計
北米	一二、六六五	一六、九九四	二九、六五九
獨逸	八、九八三	二、六九九	一一、六八二
瑞典	六、一五六	一五七	六、三一二
佛國	四、一五〇	一、〇六五	五、二一五
和蘭	四、六四五	二六二	四、九〇七
英國	三九二	三、六〇八	四、〇〇〇
伊國	三、一〇五	三二〇	三、四二五
計	四八、七三五	二八、〇一一	七六、七四六

でありまして輸出入共對米貿易が第一位に居ります。日本は第十一位に居りますが、輸入に於ては第五位

になつて居ります。即ち日本商品は比較的多く輸入されて居るのであります。

此の國の輸出入金額を商品の方面から見ますと

輸出商品	輸出金額	輸入商品	輸入金額
珈琲	四五、四三八	既製品	二〇、八六七
砂糖	一、八四三	食料品	二、六七二
バルサム	四二六	原料品	二、〇二五
其他	一、〇二八	其他	二、四四七
合計	四八、七三五	合計	二八、〇一一

でありまして、輸出は全部農産物であります。輸入に就きましては、此の國は唯今申上げました通り比較的多数の日本商品を輸入致して居るのでありますから、日本商品の此の國に於ける地位及價値を確めて、そして今の内に將來に對する用意をする事が最も緊要な事であらうと存するのであります。それで此の國が要求して居る商品の中の何れに對して最も多くの日本商品が輸入されて居るか、又主なる國との輸入比較はどんな風であるかと申しますに、

國名	食料品	原料品	既製品	其他
北米	一、八二八、四八三	一、〇一六、一三〇	一一、七〇八、〇七〇	二、四四一、二七三
英國	一一七、二四四	六四、九六二	三、四二五、二〇一	五一二
獨逸	二五、〇一七	一六〇、四九一	二、五一〇、八七五	二、八二二
佛國	二〇一、七四〇	一三、五四九	八四九、七三五	—
日本	九八七	一、三一二	一、〇〇八、六五一	—
其他	四九八、四六五	七六八、二一七	一、三六三、九八九	三、三九二
合計	二、六七一、九三六	二、〇二四、六六一	二〇、八六六、五二一	二、四四七、九九九

であるのであります。即ち此の國へ輸入されて居ります日本商品の九割九分は既製品なのであります。そして既製品としては第四位を占めて居りますが、金額の上から見ますと全體の五分にも當つて居らないのであります。食料品とか原料品とかに於きまして、日本商品が振はないのは是は止むを得ない事で、今後は如何しても既製品の賣込に全力を盡して、そして貿易額の増伸を計らねばならぬと存するのであります。殊に此の國は太平洋岸にしか港を持つて居らないのでありますから、運輸方面から觀察致しまして、日本は歐羅巴諸國よりも遙に有利な地位にある譯で、此のハンディキャップを巧に利用しなへすれば、即ち桑港積換で高率の運賃と貨物の遲着とを見て居る現状を改善して、南米航路船なり、或は紐育航路船なりに、一寸途上寄港して貰ふ事さへ出来たならば、そしてそれと共に更に一段の宣傳を行つたならば、日本商品の輸入額は著しい増加を見せる事であるだらうと堅く信ずるのであります。

一九二四年度に輸入されました日本商品の主なる物は三十六萬圓の綿糸類、二十九萬圓の綿織物、二十萬圓の絹織物を筆頭と致しまして、五萬圓の陶磁器類、一萬六千圓の莫大小製品類が之に従ふのであります。雜貨と致しましては

藥品類(醫藥及工業用)		鐵及其他の金屬製品		木製品	
日	一、四二四	日	七二七	日	四、五一八
米	五九五、七二二	瑞	五八、三〇四	英	一、八三九
佛	一一二、九六五	伊	八、〇〇四	葡	一、五六八
獨	八九、四六〇	獨	一五、八九五	支	六八五
英	四一、一〇四	佛	九、三四四	他	七四九
計	二、〇九九、六二〇	西	七、七四一	計	八六、八五二
		計	八九七、四七九		

護謄製品		玩具類		燐寸類		紙及紙製品	
日	一、二二四	日	七、四〇八	日	三、三一五	日	二、一一〇
米	二二三、三五六	獨	二五、〇二一	瑞	一〇一、〇九二	米	二三四、四九九
佛	一五、九八八	米	八、九八六	獨	三、八三四	西	一三六、〇七七
獨	一五、七八七	佛	七、一五九	米	二、二一九	獨	四五、二九四
英	四、〇〇四	チ	二六八	ノ	一、三三二	英	三四、八九四
他	一、〇七九	他	五七七	ル	一、五七五	瑞	二九、〇六四
計	二六一、四二八	計	四九、四一九	他	一一一、七九四	佛	一五、七八七
				計	五三一、五〇九	他	一八、一〇九

が主なる商品の輸入状態でありませう。更に市場の研究を充分に致し、それに順應した商品を以て宣傳且つ販路の擴張に努力致しましたなれば、此の國は日本商品にとつて、最もよい市場の一つとなる事でありませう。

三、コストリカ

此の國は其の人口の上からのみ考えますと如何には貧弱相に思はれますが、貿易の上から見ますと前述のサルバドルよりは遙に大きいのであります。平均一人當の貿易總額は凡そ百二十圓(日本は七八十圓位と記憶して居ります)輸入額が五十五圓と云ふ次第で仲々に上等な得位様になり得る資格を持つて居るのであります。一九二五年度の此の國の統計に據りますると、外國貿易總額は約六千萬圓で輸出超過額が五百餘萬圓であります。其の内譯は

對手國名	輸出金額	輸入金額	計
米	一四、〇五七	一四、九六七	二九、〇二四
英	一五、〇三五	四、三一五	一九、三五〇
獨	二、〇一七	二、八九六	四、九一三
佛	二七〇	三八〇	六五〇
計			三二、八三二

でありまして對米貿易が約半分を占めて居ります。又商品の立場から致しましては

輸出商品	輸出金額	輸入商品	輸入金額
珈琲	一六、八〇六	食料及飲料品	六、二四六
バナナ	一一、五二四	原料及半製品	二、五三四
金銀及他の貨幣	一、二二四	既製品	一七、六七五
其他	二、二八八	其他	一、一八七
合 計	三二、八三二	合 計	二七、六四二

でありまして、輸出商品は珈琲と、バナナとであると云ふても宜敷いのであります。そして珈琲は主として英國へ、バナナは殆ど全部北米合衆國へ行くのであります。輸入商品の六割餘が既製品で、其の内如何なる物が日本製雜貨として輸入されて居るかと申しますと

卸類、扇子類、燻寸、藥品、玩具類、文房具類、花筵及野草筵類、であります。其の各品目の輸入金額に就きましては、何しろ日本商品全體の輸入額が僅に六萬圓でありますから、從而極めて少額で特に申上げる程の物はないのであります。

此の國は最初にも申上げました通り一人當り五十五圓からの購買力を持つて居るのでありますから、日本商品としても、も少し澤山買つて貰へる餘地があらうと存じます。要するに從來は宣傳が足りなかつた

次第で、之をとりかへす意味に於ても、又新販路開拓の意味に於ても、もつと大々的に宣傳をなす必要があらうと存するのであります。

四、巴 奈 馬

一九二四年度の外國貿易總額三千三百餘萬圓の内二千七百餘萬圓と云ふものは輸入金額であります。即ち輸出金額と致しましては僅に六百萬圓位に過ぎないので、此の均衡のとれない入超の姿は、要するに此の國が如何に多くの通過漫遊客及艦船員の購買力を持つて居るかと云ふ事を示す證據であらうかと存するのであります。

輸出と致しましては三百八十萬圓のバナナ、五十四萬圓のカ、オ、四十五萬圓の椰子實等が主なる物であります。大抵皆北米合衆國へ運ばれて行つて了ふのであります。

輸入に就きましては、先づ其の主なる國々との貿易額が

北 米	英 國	佛 蘭 西	支 那	獨 乙	日 本	西 班 牙	其 他	合 計
一七、九五〇	二、六二八	一、六〇二	一、四三四	一、二一八	四八二	三六四	一、九六〇	二七、五三八

でありまして、北米は圖抜けて多く、日本は僅に四十八萬圓を以て第六位に立つて居ります。そして日本製雜貨として同年度に輸入された主なる品目と金額と且つ他國との比較状態は

殺 虫 劑	樟 腦	燻 寸	齒 刷 子	其 他 的 刷 子					
日	四七八	日	一、五一四	日	五、一三四	日	四、三〇二	日	一、〇〇〇
米	一、六〇六	米	四八六	瑞典	三、七〇二	米	二、八六八	米	二、五三四

計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日

四六〇 四一八 一、一七〇 二、二七四
 一七二 八 九九六 一、七〇
 二、七一六 二、四二六 他 米 五七、二一〇 他 獨 二、七九八
 二、四二六 他 米 五七、二一〇 他 獨 二、七九八

貝 貝 象 牙 製 品 絹 製 履 物 日 傘 類

計 他 獨 佛 日 計 他 獨 佛 日 計 他 獨 佛 日 計 他 獨 佛 日 計 他 獨 佛 日

二、九一六 二、四六〇 五、〇九四 三、七九二
 三、八四八 三、三五二 二、三八三 四、六六〇
 一、〇五八 一、二二八 一、二九八 四、二二六
 一、四六二 七、〇四〇 計 他 獨 支 日 他 支 日 他 支 日 他 支 日 他 支 日

九、二八四 七、〇四〇 計 他 獨 支 日 計 他 獨 支 日 計 他 獨 支 日 計 他 獨 支 日 計 他 獨 支 日

二、六八八 一、一五四
 四、四七二 三四六

漆 器 類 スリッパ 籐 蘭 製 品 花 筵 護 謨 靴

計 獨 支 日 計 獨 支 日 計 獨 支 日 計 獨 支 日 計 獨 支 日

三、五二四 八、三三二 二、八九八 五七八
 六〇六 二、九一四 五、三八六 七、一八
 七八 三、八六 九四 七、六九六
 四、二〇八 二、六二二 他 支 日 他 支 日 他 支 日 他 支 日 他 支 日

九、二〇八 二、六八八

護 謨 製 品 バスケット類 鏡 紙 製 品

計 他 英 米 日 計 他 英 米 日 計 他 英 米 日 計 他 英 米 日 計 他 英 米 日

一、五四八 三、七一八 二、九〇〇 二、一二八
 一七、二六六 九、四九四 九、四四 三、六〇〇
 九一二 一、五二八 七、八〇 三、三四四
 九五二 三〇〇 二、三六 五九〇
 二〇、六七八 一五、〇四〇 他 獨 支 日 他 獨 支 日 他 獨 支 日 他 獨 支 日 他 獨 支 日

二、六三三
 一七、五五〇
 一、三七八
 八二〇

文 房 具 セルロイド製 品 一 般 裝 飾 品 並 物 麥 藁 帽 子

計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日 計 他 英 獨 米 日

九三二 一、一七二 二、六七二 二、一二八
 九八、二五〇 四、四五四 九、九三六 三、六〇〇
 六、九三二 三、二六二 四、五三二 三、三四四
 一、二〇四 二、〇三二 三、七六〇 五、九〇
 一、三八四 三、七四 二、二五八 五、三九六
 一〇八、六八二 一、二、二九四 二、三、一五八 四、三、八二四

五、六八二 五、一、九八
 五、三九六

綿 製 洋 傘 革 製 手 提 鞵 革 製 履 物

計 他 支 英 獨 米 日 計 他 支 英 獨 米 日 計 他 支 英 獨 米 日 計 他 支 英 獨 米 日 計 他 支 英 獨 米 日

一、二六四 二、〇五八 一〇、八四二 六八八、九三二
 六、〇六四 一、五六四 三、六七六 一八、七一一
 二、〇四二 一、一六二 三、六二〇 一一、九三八
 九七八 六九六 三、〇三八 三、〇九八
 七八二 一、一〇四 五、六二 八、五一一
 一、二、四一八 七、二四八 二、二、四〇八 七、三一、八二六

六、三四
 六三三

其 他 の 革 製 品 模 造 貴 金 屬 製 品 玩 具 木 製 品

計 他 佛 英 獨 米 日 計 他 佛 英 獨 米 日 計 他 佛 英 獨 米 日 計 他 佛 英 獨 米 日 計 他 佛 英 獨 米 日

二、二三〇 七、四四 一〇、三三四 四、七〇八
 二〇、二九〇 一八、二五〇 六、一、一八二 四二、八七八
 八、三五四 一四、六五〇 二、五、一八〇 九、六七六
 三、三〇八 一三、五三四 五、五三四 三、三五六
 一、六〇二 四、二九四 二、七二二 三、二八四
 一、五四二 一、七九六 三、四一〇 六、一〇六
 三、七、三二六 五、五、四八〇 一、一、七九六 七〇、〇〇八



であります。即ち全體として約百四十四萬圓の輸入を見ましたのに對して、日本からは其の壹割にも足りない拾參萬五千圓程を賣込んで居るに過ぎないのであります。若しも更に市場の研究、商品の研究、宣傳の充實、販路擴張に對する施設等に意を用ひ且つ實行致しましたならば、我が日本製雜貨は、も少し此國に發展致す事が出来るだらうと信ずるのであります。

五、コロンビア

一九二四年度の外國貿易總額は凡そ二億七千六百萬圓でありまして、輸出超過額は五千九百萬圓程であります。主なる國別によります輸出金額は

對手國名	輸出金額 千円	輸入金額 千円	計 千円	對手國名	輸出金額 千円	輸入金額 千円	計 千円
北米	一三四、六七三	五二、七七一	一八七、四四四	西班牙	八八五	二、三一三	三、一九八
英國	六、三〇六	二二、〇〇〇	二八、三〇六	巴奈馬	六四四	四五六	一、一〇〇
ベネズエラ	一三、〇五五	七四一	一三、七九六	エクアドール	七	八八七	八九四
獨逸	一、六七一	九、九三五	一一、六〇六	政馬	三〇〇	四四五	七四五
佛國	一、三四四	七、四八四	八、八二八	日本	一三	五一九	五三二
和蘭	五、五四八	二、六六四	八、二一二	其他	二、四二五	二、三四四	四、七六九
伊國	二〇七	三、四六一	三、六六八	合計	一六八、〇二四	二〇八、四〇一	二七六、四二五
白國	九四六	二、三八一	三、三二七				

でありまして、對米貿易が特に多額に昇ります所以は、一億一千五百萬圓程の珈琲を北米合衆國に送り、そして食料品、機械及織物類を多額に輸入するからであります。

此國の輸出品の主なる物と申しますと、一億三千二百萬圓の珈琲、八百八十萬圓のバナナ、七百八十

萬圓のプラチナ及五百六十萬圓の牛皮等であります。尙ほも少し説明申し上げますと

品目	輸出數量	輸出金額 千円	摘要
動物	三六、五五一頭	一、五七八	百五十二萬圓は牛で、其内五十八萬圓は墨國へ、廿九萬圓はバナナへ輸出さる
畜産物	七、七四九頭	六、一二五	五百六十萬圓は牛皮で、其内凡そ三百九十萬圓は北米へ輸出さる
鑛産物	一五〇	一三、〇一八	凡そ七百八十萬圓は白金で、其内六百八十萬圓は北米へ輸出さる。二百九十萬圓は金で殆ど全部北米へ輸出さる
農産物	三五〇、三三二	一四五、一四八	一億三千二百萬圓は珈琲で、其内一億一千五百萬圓は北米へ、一千七百七十萬圓はベネズエラへ輸出さる。八百八十萬圓はバナナで、英、米、和へ輸出さる
既製品	一、七七〇	一、三一四	四十四萬圓は再輸出額、六十八萬圓はバナナ帽で、其内四十五萬圓は北米へ輸出さる。
小包便による物	一二	七八六	四十一萬圓は北米行きで、内容は不明

と云ふ状態でありまして、即ち珈琲が此國の輸出を牛耳つて居るのであります。

元來中米諸國と此國とは珈琲で生活を立て、居る様な次第でありますから、珈琲の世界的景況は直に是等の諸國の景況を左右するのであります。然しながら此の國の珈琲は伯刺西爾珈琲よりは遙に品質が良いので、従而多少需要者を異に致します關係上、唯今の處伯刺西爾珈琲に壓される如な心配もなく、又生産過剰の憂もないので、遽に値段の下落を來す如な心配もありません。從て此の國の景況に就いては唯今の處それ程悲觀すべき何等の材料も無いと言つてよいのでありますから、此際本邦製品の宣傳と販路開拓に充分力を盡さねばならないと存する次第であります。

一九二四年度に於て凡そ五十二萬圓の日本商品を賣込んで居りますが、其の重要なる物は二十一萬圓の綿織物、四萬七千圓の絹織物、四萬八千圓の莫大小製品及三萬七千圓の綿糸等でありまして、雜貨と致し

ましては大體次の通りであります。

貝

計	他	佛	伊	米	英	日
四二、三一五	六三八	一、七〇八	二、二六六	二、九一九	一、二〇八六	二二、六九八 ^円

セルロイド標人形及ゴム襪類

計	他	佛	米	獨	日
四八、九五七	三、二三七	七、二五二	七、三七一	一七、八二九	一三、二六八 ^円

商及爪ブラシ

計	他	佛	獨	米	日
二二、七五八	二六九	四、〇三八	六、一六四	六、二八一	六、〇〇六 ^円

鏡(二十五種以下)

計	他	和	米	佛	獨	日
九八、三五八	四、二七二	五、四二九	六、五二五	七、七二八	七二、一七五	二、二二九 ^円

醫 療 劑

計	他	英	獨	佛	和	米	日
二八一、五六七	一九、五二五	二六、〇六六	三三、九八九	五六、七四三	五九、〇一七	八〇、九六二	五、二六五 ^円

化 學 製 品

計	他	英	獨	和	佛	米	日
九九、六〇八	一、六二二	五、一〇九	一〇、四二一	一一、一一三	一八、四一八	五〇、九四六	一、九七九 ^円

セルロイド櫛

計	他	英	米	伊	獨	佛	日
九五、九〇六	一、七〇二	二、四八二	三、八九四	八、四四〇	九、二一一	六六、四八一	三、六九五 ^円

紙 製 品

計	他	和	佛	西	獨	米	日
一〇四、九三一	六三八	三、一八二	四、四一一	一〇、九九二	三四、一一九	四八、七四四	二、八四五 ^円

紙 類

計	他	伊	獨	米	日
四八、九八六	二、九四一	八、一二二	一〇、二〇四	二四、一〇八	三、六一一 ^円

コ ッ ピ ー 帳

計	他	獨	英	米	日
二五、六九〇	二、五八八	二、一四五	二、二五四	一四、〇五六	四、六四七 ^円

ノ ー ト ブ ッ ク

計	他	英	獨	米	日
四三、九五二	四、四七七	五、四二五	一五、二三一	一六、二八四	二、五三五 ^円

鉛 筆

計	他	英	獨	米	日
七〇、二八三	一、三九〇	一、〇〇〇	二五、三八三	四二、三〇三	二〇七 ^円

綿 製 洋 傘

計	他	西	獨	佛	伊	日
一七七、九〇六	九、四九一	五、二九四	一六、〇七〇	五一、二四六	九五、五八九	二一六 ^円

麥 稈 質 用

計	他	佛	伊	米	英	日
三一、四〇五	六、一三五	四、三六六	五、二二二	六、二四〇	八、〇〇三	一、四四九 ^円

麥 藁 帽 子

計	他	西	獨	佛	和	日
一八六、三七八	六、三四一	九、二一一	一五、七七六	一五、九四三	一三八、八五四	二五二 ^円

鉄 力 玩 具

計	他	佛	和	米	獨	日
四八、七〇七	二、一三五	一、六四二	二、六九九	六、八一九	三四、七二二	六九〇 ^円

木 製 玩 具

計	獨	日
五、三九八	一四、七四四	二五二 ^円

木 製 品

計	獨	米	日
一一、六六七	二六、八二四	二、〇二〇 ^円	二、〇二〇 ^円

刷 子 類

計	獨	米	日
六、二三二	八、二一〇	二、一一〇 ^円	二、一一〇 ^円

角 製 櫛

計	伊	佛	日
一五、六三五	三〇、八四三	五八五 ^円	四一 ^円

計	革製錢入類	二六、六八八	計	革製手提	五〇、一四七	計	硝子玉	二六、二九四	計	綿靴紐	五八、六八一
日	六、一四四	日	一、四八四	日	一、八五八	日	一、二一五	日	一、〇八九	日	一、二一五
獨	二、六九五	佛	三、〇五二	獨	一、八四八	米	一、〇八九	獨	四、四四二	佛	一、五五〇
英	二、〇六七	獨	一、九九三	米	三、〇六〇	佛	二、〇二六	西	一、五五〇	佛	八八九
米	一、四二四	伊	一、九〇五	佛	二、〇二六	他	一、六六一	他	一、六六一	他	八八九
佛	一、三七五	米	一、二七九	和	二、〇一二	他	一、六六一	他	一、六六一	他	八八九
他	二、二六二	他	一、二四一	他	一、六六一	他	一、六六一	他	一、六六一	他	八八九
計	一〇、四三七	計	一〇、八五四	計	二二、四六五	計	一八、一八五	計	二二、四六五	計	一八、一八五

此の外に未だ數種の商品が有りますけれども、餘りに金額も小さいし、それに煩雜過ぎますから省略する事と致します。

要するに此國などは日本製雜貨にとりまして、實に未來のある有望な市場であると言ふ事が出来るのであります。

六、ベネスエラ

此の國は南米の北端に位してカリビアン海に臨んで居ります關係上、日本からは唯今の處一番不便な位

置に在る譯であります、然し歐米からは極めて近い便利な所に在るので、歐米との貿易は仲々に盛で、且つ又其の資本が盛に這入つて來て、石油の開發をやつて居るのであります。從而景氣は唯今仲々凄い勢なのであります。

一九二五年度の外國貿易總額は凡そ二億五千萬圓で、約一千餘萬圓の出超を示して居ります。各國別の輸出入状態は

對手國	輸出金額	輸入金額	計	對手國	輸出金額	輸入金額	計
北米	二二、六五二	六五、三二二	八六、九七四	佛國	一、〇〇四	六、一二二	七、一二六
クラサオ	五七、四二六	一、五七六	五九、〇〇二	蘭領ギニアナ	五、二一六	四	五、二二〇
英國	四、〇三六	二二、九七八	二七、〇一四	伊國	一、〇九四	三、二四六	四、三四〇
獨逸	七、八一〇	一〇、〇五〇	一七、八六〇	日本	七、一四八	九二	七、二四〇
西班牙	八、七八四	三、一七二	一一、九五六	其他	一三三、〇〇〇	三、六〇四	一三六、六〇四
アルーベ島	一一、七一六	一〇	一一、七二六	合計	一三三、〇〇〇	一一一、四七〇	二四四、四七〇
和蘭	六、一一四	五、二九四	一一、四〇八				

クラサオ島 Curacao とアルーベ島 Aruba とは共に和蘭領でありまして、此の地との貿易は實際は積換るゝ爲のものでありまして、本當の對手國は他の多くの諸國である事を御承知願はねばならぬのであります。

此の國の輸出商品に就いて申し上げますと

輸出商品	輸出金額	摘要
石油	五四、三八〇	七割五歩はクラサオへ、一割餘はアルーベ島へ、次いで北米へも輸出される

珈琲	五〇、二五八	主としてクラサオへ、次いで米、獨、西、和、佛へ輸出さる
カ、オ	一一、八三六	四割は北米へ、次いで佛、英、西へ輸出さる
護謨	二、八七八	八割は英國へ、次いで北米へ輸出さる
草類	二、三五二	五割は北米へ、次いで英、佛、獨へ輸出さる
砂糖	一、七〇〇	殆ど全部北米へ輸出さる
生砂	五一四	殆ど全部英國へ輸出さる
眞珠	七二〇	大半はクラサオへ、次いで佛國へ輸出さる
金	六一六	殆ど全部北米へ輸出さる
泥	四二二	同右
棉	四七六	殆ど全部英國へ、僅に獨逸へも輸出さる
土	四六四	全部北米へ輸出さる

が主要なる物でありまして、石油と珈琲とが横綱の位置を持つて居るのであります。

輸入商品に就きましては、一千六百萬圓に近い綿織物、五百萬圓餘の自動車、五百萬圓の鐵製品、四百萬圓の機械類及四百萬圓の麥粉等が金額的に大きな物であります。

日本商品と致しましては、何しろ全額で九萬圓位でありますから、特に取立、申上ぐる程の物はないのであります。で同年度に輸入されました主なる雜貨の全額と日本品の金額とを次に對比して御參考に供し度いと存じます。

日本品輸入額	四九六 ^円	藥品類	七、六一四 ^円	刷子類	九、四四八 ^円	櫛類	六五〇 ^円	扇子類	六〇〇 ^円
輸入全額	二、三五〇、六三〇	紙類	一五、三〇二	鏡類	六九、〇五二	櫛類	七二、六八〇	扇子類	二、〇〇六

日本品輸入額	五、一八	模造眞珠	一九四 ^円	硝子玉類	二二八 ^円	鏡類	九二〇 ^円	玩具類	二、二六六 ^円
輸入全額	三〇、二三〇	紙製サーペントイン	八一六	紙製品	九四、二三八	コツビー帳	三三一、五八〇	木製家具	一六一、五〇二
日本品輸入額	二、八五〇 ^円	紙製サーペントイン	一、五三〇 ^円	コツビー帳	五七六 ^円	木製家具	七一四 ^円	木製品	七八六 ^円
輸入全額	三二、〇八八	花	六〇、七五四	製帽原料	一四、九〇八	靴紐類	八五、三七六	靴下止	四五四、一七二
日本品輸入額	一、〇一四 ^円	花	三〇八 ^円	製帽原料	九四 ^円	靴紐類	一六二 ^円	靴下止	一四〇 ^円
輸入全額	六、三六四	花	八、〇一四	製帽原料	一六二、一一六	靴紐類	一四、四四二	靴下止	二〇、四六〇

之を御覽下されば日本品の振はなさ加減が充分御了解して頂ける事と存じます。從來日本品の宣傳が全く行はれて居らなかつたが爲めに、斯うした結果を見る次第でありまして、今回旅商の携行致しました見本が商人を初め一般觀衆にも非常な好宣傳となつた事は私共にとつて誠に欣快に堪へない處で、此上は是非共本邦貿易業者の御活躍に依つて、此の有望な新販路を開拓致さねばならぬと存するのであります。

七、玖 馬

世界的砂糖の産出國として又煙草の輸出國として有名な此の國は、羅典亞米利加に於て第三番目の貿易額を持つて居るのであります。即ち一九二五年度に於て十三億二百萬圓の外國貿易總額を有し、出超は一億二千三百萬圓を示して居るのであります。其の輸出入金額を國別に申上げますと

對手國名	輸出金額	輸入金額	計	對手國名	輸出金額	輸入金額	計
北米	五二八、四〇〇	三七四、四四八	九〇二、八四八	ウルガイ	一、四九四	一一、二四六	一二、七四〇
英國	一一一、一二六	二四、〇五八	一三五、一八四	亞國	六、五三六	三、五六〇	一〇、〇九六
佛國	一一、二八六	二二、六五六	三三、九四二	白國	一、七一八	七、四三六	九、一五四
英印	一一	三二、八七二	三二、八八四	日本	三、八九二	二、二四二	六、一三四
西班牙	三、七四四	二六、一一〇	二九、八五四	伊國	一五六	五、〇八六	五、二四二
加奈陀	一一、九一一	一三、二三八	二六、一五〇	支那	二、三五六	二、六八〇	五、〇三六
獨逸	四、三七二	一八、七五四	二三、一七六	其他	八、八六四	二、三一〇	一一、一七四
墨蘭	五八	一七、二六六	一七、三二四	合計	七〇七、九六八	五九四、六四八	一二、三〇二、六一六
和蘭	一〇、八〇六	四、九二〇	一五、七二六				

でありませす。又總括的商品別に申上げますと

輸出商品	輸出金額	摘要
砂糖類	五九五、二六六	凡そ四億五千萬圓は北米へ、一億圓は英國へ輸出さる
煙草類	八二、九四六	六割強は北米へ、次いで英、亞へ輸出さる
果實類	一一、九六八	主として北米へ輸出さる
皮革類	四、一二六	六割強は獨逸へ、次いで北米へ輸出さる
鐵産物	四、二六六	殆ど全部北米へ輸出さる
林産物	二、〇三八	五割餘は北米へ輸出さる
海産物	一、六四四	主として北米へ、下つて佛國へも輸出さる
其他	五、七一四	
合計	七〇七、九六八	

輸入商品	輸入金額	摘要
食料品	二二六、四五二	肉類及穀類を主とし、其の五割餘は北米から輸入さる
機械及器具類	七九、八五二	九割迄北米から輸入さる
織物及其製品	七六、八三〇	綿織物を主とし、三千六百萬圓を北米から、次いで英國から輸入さる
セメント類及窯業製品	四三、七九二	五割は北米から輸入さる
金屬類及其製品	三九、九七六	三千二百萬圓は鐵で、其内二千六百萬圓は北米から輸入さる
醫療及工業用藥品類	三八、七〇〇	五割餘は北米から、次いで佛、獨からも輸入さる
紙類及其製品	九、五〇二	凡そ六百萬圓は北米から、次いで獨逸から輸入さる
木材類及其製品	一一、四五二	八百萬圓は北米から、次いで英國から輸入さる
其他	六八、〇九二	
合計	五九四、六四八	

日本との貿易に就きましては、此の國から三百八十萬圓の生砂糖が輸出され、日本から九十三萬圓の豆、十二萬圓の米、十三萬圓の莫大小、十二萬圓の鈕類、略々同額の絹織物及綿製品等を主要なる商品として輸入されて居ります。雜貨に就きましては

洋杖及傘類	刷子類	花	電燈
日 一、三、八九四	日 四九、六二四	日 三、〇〇二	日 四、〇二八
米 一六一、〇〇八	獨 一八八、〇七〇	獨 二二、六一四	米 三四四、二三八
伊 五〇、六二四	獨 三六、〇五四	米 一三、三二〇	獨 一八九、八五六

が主なる商品の輸入状態でありす。

此の國の地理的位置から見ましても、貿易的狀態から見ましても、日本は、も少し此國に對して注意研究をせねばならぬと存するのであります。然るに如何した譯か、折角存在して居た領事館を廢置して了つたり、荷物が足りないといふ云つて船を寄せなくして了つたりして、全く自分から捨てにかゝるやうな態度に出で居るのは、返すくも残念な事で、是は何とかして早く復活して、我が貿易を盛り返へす事に力めねばならぬと存するのであります。

八、秘 露

一九二五年度の外國貿易總額は凡そ三億九千萬圓でありまして、約三千四百萬圓の出超を示して居ります。其の對手國と輸出入金額とは

對手國名	輸出金額	輸入金額	計	對手國名	輸出金額	輸入金額	計
北 米	七三、八七三	六八、九九三	一五二、八六六	佛 國	一、一九一	六、五二〇	七、七一
英 國	七二、三〇二	三三、六三三	一〇五、九三五	白 耳 義	九九六	四、〇四一	五、〇三七
智 利	一七、七六三	五、四三六	二、三一九九	和 蘭	五七六	四、〇八九	四、六六五
獨 逸	三、五三三	一九、六一八	二、三一五一	日 本	五九五	一、八四五	二、四四〇
亞 國	一六、三四八	一、六二〇	一七、九六八	其 他	九、八一九	二、三八八二	三三、九〇一
加 奈 陀	一四、六四〇	八三〇	一五、四七〇	合 計	二二、二九〇	一七八、三四四	三九〇、六三四
伊 國	六五四	七、八四七	八、五〇一				

でありまして、北米合衆國と英國とは圖抜けて大きい貿易額を持つて居るのであります。日本は随分古くから此國と貿易をして居るのであります。未だに十一番目位にしか位置して居らないのであります。要す

るに宣傳の不足と研究の不充分とに據つて居る事と存じます。

又此の國の輸出入金額を商品別に區分して見ますと、

品 目	輸出金額	輸入金額	計	品 目	輸出金額	輸入金額	計
食料品	二五、四五四	四〇、四八四	六五、九三八	其 他	八、八五三	一三、二二五	二二、〇七八
原料品	一七七、三三九	一四、一四二	一九一、四八一	合 計	二二二、二九〇	一七八、三四四	三九〇、六三四
既製品	六四四	一一〇、四九三	一一一、一三七				

と云ふ事になりまして、非常なる原料の供給國で、既製品の購買國であると云ふ事が解るのであります。でどんな物を輸出商品と致して居りますかと申上げますならば、(單位千圓)

輸出品目	輸 出	輸 入	計
棉	五九、二一四	五四、九三九	一一四、一五三
石油	四一、四二二	二一、〇七二	六二、四九四
銅	二一、〇七二	一一、八四四	三二、九一六
砂 糖	七、一七四	一、六七九	八、八五三
金屬類	一、六七九	一、六七九	三、三五八
羊毛	一、六七九	一、六七九	三、三五八
革 類	一、六七九	一、六七九	三、三五八

が最も主要なる物であると申上げねばならないのであります。最近糖業界の不振より致しまして、此國の砂糖耕地は段々に棉花耕地に變つて行く傾向を見せて居ります。そして日本人で此の棉花事業に手を出して居らるゝ方も相當に多いのであります。

一九二四年度に日本から輸入された商品は、四萬圓の綿織物、三萬四千圓の絹糸類、三萬二千圓の絹織物等が主なる物でありまして、雜貨と致しましては

品 類	輸 入	輸 出	計
錫	二九、二二一	二〇、六八一	四九、八三二
佛	三、四五五	八、二五七	一一、七一
米	三、〇五五	五、二六一	八、二六一
獨	三、〇五五	三、七三八	六、八三三
英	三、〇五五	三、二九九	六、三五四
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
獨	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
英	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
佛	三、〇五五	三、二七〇	六、三二五
日	三、〇五五	三、二	

他	二、七二四	他	四、七五三	他	一、三二八	他	九〇七
計	三八、四四五	他	三八、九二五	他	一四、七六七	他	四一、八九〇
日	花 蓮、草 蓆類	日	セルロイド製品	日	一、八二五	日	一〇、八七三
米	一四、八三五	獨	六、六八六	獨	三三、四四八	獨	五三、四三六
香 港	二、〇三〇	米	五、〇四六	佛	二二、八〇五	白	二〇、四二八
他	一、四四四	英	二、一七六	伊	一三、七四二	伊	一四、九四三
計	二一五	他	一、二七九	他	一四、六三〇	他	一一、四八二
日	一八、五二四	計	一七、〇二二	日	九九、五九一	製 品	一一二、一六二
獨	二四、九三七	米	六、六九五	日	一八、一八三	白	六二、五一三
佛	一三二、五八〇	他	一一、八六八	獨	九五、一八〇	他	三二、二五六
計	一九、〇七一	計	一九五、一五一	米	八二、九一一	製 品	二九一、〇四三

が主なる商品の輸入状勢であります。(一九二五年度分の詳細が不明でありますが爲に、其の前年度分を茲に申述べました次第であります)

九、智 利

智利硝石を以て有名であります此の國の外國貿易總額は、一九二五年度に於きまして、凡そ七億五千萬圓であります。輸出超過額は同年度に於て一億五千餘萬圓に昇つて居ります。

國別に依ります輸出金額の概略は

對手國名	輸出金額	輸入金額	計	對手國名	輸出金額	輸入金額	計
北 米	一七八、一三四	八二、六二九	二六〇、七六三	亞 國	六、九二四	八、九八一	一五、九〇五
英 國	一五七、一七六	六二、三四六	二一九、五二二	印 度	二七五	一五、四二三	一五、六九八
獨 逸	二九、九五三	三二、九九三	六二、九四六	和 蘭	四、三四六	三、二一八	七、五六四
佛 國	二五、九五五	一三、三九二	三九、三四七	西 牙	三、二五七	四、〇〇六	七、二六三
伊 國	一一、一三八	一四、〇七一	二五、二〇九	日 本	四、六三六	二、五二九	七、一六五
白 國	四、二四八	一八、三二三	二二、五七一	其 他	二四、七四八	二一、六二八	四六、三七六
秘 露	三、八九五	一八、一五〇	二二、〇四五	合 計	四五四、七五五	二九七、六八九	七五二、四四四

でありまして、茲に於ても米英二國が其他の諸國とは飛び離れた貿易額を持つて居るのであります。概括的品目に別けまして其の輸出入金額を列べて見ますと。

品 目	輸出金額	輸入金額	計	品 目	輸出金額	輸入金額	計
食料及飲料品	四六、二九〇	四三、六七〇	八九、九六〇	其 他	一、〇五七	七、一七五	八、二三二
原料及半製品	三八七、八二七	三九、二五五	四二七、〇八二	計	四五四、七五五	二九七、六八九	七五二、四四四
既 製 品	一九、五八一	二〇七、五八九	二二七、一七〇				

と云ふ事になります。即ち此の國も原料を供給して、既製品を買つて居る事がよく解るのであります。では如何なる物を輸出してゐるかと申しますに

輸出商品	輸出金額	輸出金額
硝 石	二五一、〇一九	一億一千七百萬圓程を北米へ、九千五百萬圓程を英國へ、次いでエヂプト、ハワイ及日本等へ
銅	一〇三、三九八	凡そ三千八百萬圓を北米へ、次いで獨、英、佛等へ輸出さる

伯國	六四、一七三	七〇、六一一	一三四、七八四	瑞典	八、九七五	一一、四五〇	二一、四二五
和蘭	六四、三六二	二三、三四五	八七、七〇七	智利	一一、三九九	八、一九七	一九、五九六
西國	二四、一九一	四四、一五五	六八、三四六	ウルガイ	一〇、八五〇	六、七〇七	一七、五五七
英殖	五八五	五八、四二三	五九、〇〇八	馬	五、四四六	九、二六〇	一四、七〇六
秘露	八九〇	三四、一八八	三五、〇七八	日本	二、〇八六	一一、二五八	一三、三四四
巴拉ガイ	一一、八四六	一八、四〇八	三〇、二五四	其他	四六一、六二五	六一、七六五	五二三、三九〇
暹國	八一	二四、七〇二	二五、五一三	合計	一、六七五、一〇五	一、六九二、三一七	三、三六七、四二二

此の國の輸出商品に就いて極く大雜把に説明申し上げますと

品目 數量 金額 摘要

畜産物	一、四八九、七四四	七四五、七二三	三億一千五百萬圓の肉類、一億五千萬圓の皮革類、一億三千八百萬圓の羊毛を主とす
農産物	七、九〇〇、九三四	八五八、二〇五	三億七千萬圓の小麥、二億三千四百萬圓の玉蜀黍、一億六千八百萬圓の亞麻を主とす
林産物	三八一、八八〇	四一、七四四	三千五百萬圓のケブラツチヨを主とす
其他	三四二、四六八	二九、四三三	
合計	一〇、一七五、〇二六	一、六七五、一〇五	

と云ふ事になります。輸入商品に就きましては、四億四百餘萬圓の織物類、三億一千三百餘萬圓の鐵及其の製品、約二億圓の食料品等が最も主要なる物であります。

日本との貿易に就きましては、此の國から約八百萬圓の羊毛、七百四十萬圓の「ケブラツチヨ」エキス、三百三十餘萬圓の鹽牛皮等が主要なる物として輸出され、約三百六十萬圓の絹織物、三百萬圓程の綿織物、

一百萬圓程の卸類が主要なる物として輸入されて居ります。

日本製雜貨の輸入状態に就きましては、此の國の統計表を借りまして、一九二四年度及一九二五年度の二つの數字を申し上げ、そして此の兩年度に於ける日本品の異動と他國品の異動とを比較對照するの御參考に供し度いと存じます。猶ほ茲に申し上げます金額は關稅査定額でありますから、左様御承知置き願ひ度いのであります。

品目	一九二四年	一九二五年	品目	一九二四年	一九二五年
卸類	一九二四年	一九二五年	織物	一九二四年	一九二五年
日	三四七、六一二	七五六、四五〇	日	二五三、五四六	三〇八、五二〇
伊	三九九、四一〇	五〇五、一二二	獨	一六七、一九〇	一五三、一八四
獨	二四一、九〇八	三五二、七三五	佛	一四五、一〇五	一五六、三七四
佛	二二五、三三一	三四二、七九五	伊	七九、九七一	八九、九三四
米	八〇、三三八	八五、五〇九	英	五七、一五九	五一、八〇五
他	一一八、一四九	一四九、四八五	他	九四、三五八	六七、七四二
計	一、四二二、七四八	二、一九二、〇九六	計	七九七、三二九	八二七、五五九
麥	一九二四年	一九二五年	玩	一九二四年	一九二五年
日	一四七、〇七〇	九〇、四六三	日	一七〇、七六三	三六五、二一〇
伊	一二四、六二八	一四九、二五八	獨	一五八、一九七	一四八、三一〇
英	一〇五、〇九六	一〇五、六五六	米	一二二、五二八	二三七、二九四

瑞西	七二、一四九	九二、四八〇	英	一五〇、六五二	一九二、八八四
佛	三五、六八八	五二、二三四	佛	一三四、六三三	一一三、九九九
他	九、四四七	九、六二八	他	五九、〇三二	一一五、九三九
計	四九四、〇七八	四九九、七一九		二、二二五、八〇五	二、五二三、六三六

此の外に尙ほ次のやうな輸入があるものであります。(一九二五年度分、金額は査定額)(單位圓)

花菱類	木製品	硝子製品	護謄製品	妻楊子	コッビー紙	其他の紙	帳	簿
五七、五六四	二〇、二八〇	二一、六二八	六七、七二〇	二六、〇四〇	三五、八二三	二一、一三四	一九、五二六	
電線	樟腦	肉桂	膠類	コ、ナット				
五八、四八一	二二、二五五	二七、七八八	四〇、九五三	五八、五六〇				

此の國の人口は凡そ一千万人でありまして、平均一人當り百七十圓以上の輸入額を持つて居るのであります。そして南米でも最も文化の發達した國でありまして、文明施設の發達と共に國內の富源は愈々開拓されて行くのでありますから、將來の購買力は又實に偉大なものであらうと存するのであります。かうした國に對しては更に一段の努力を加へて、我が商品の販路擴張に勉めねばならぬと存じます。

十一、ウルグワイ

一九二六年度の外國貿易總額は凡そ三億四千七百萬圓であります。で此の國の統計表中輸出金額は實際市價に據つて計上されて居りますけれども、輸入金額の方は税率表に定められました査定價格に據つて計上されて居りますので、實際價格よりは遙に低いものであると云ふ事を豫め御承知置き願ひ度いのであります。

申上げますと (單位千圓)

對手國名	輸出金額	輸入金額	計	對手國名	輸出金額	輸入金額	計
英國	四九、五八九	二〇、三二一	六九、九一〇	西國	一、三一四	七、〇七七	八、三九一
北米	二二、一一四	四四、一三九	六七、二五三	和蘭	五、五一四	一、七九一	七、三〇五
獨逸	二九、三一	一六、八五八	四六、一六九	墨國	六	三、一五三	三、一五九
佛國	二五、五二三	一一、〇三三	三六、五五六	瑞馬	一、七九七	一、〇五八	二、八五五
亞國	一八、四四四	一四、九八三	三三、四二七	瑞典	一、五一五	四八三	一、九九八
白蘭	一八、五四七	八、三七五	二六、九二二	日本	四一	一、二一九	一、二六〇
伊國	九、三三二	八、三六七	一七、六九九	其他	二、〇八一	四、八五一	六、九三二
伯國	九、〇五二	七、九五五	一七、〇〇七	合計	一九六、一八〇	一五一、六七三	三四七、八五三

であります。次に總括的品目分けにして其の輸出入金額を申上げますと

輸出品目	輸出金額	摘要
蓄産物	一七八、六四七	七千八百餘萬圓の肉類、五千八百萬の羊毛、二千三百萬圓の革を主とす。
農産物	一一、八〇五	六百二十萬圓の亞麻仁、二百萬圓の小麥、二百萬圓の小麥粉を主とす。
敏産物	四、六七六	三百三十萬圓の砂を主とす。
漁獵産物	六〇九	二十萬圓の鮮魚、十八萬圓の獺皮を主とす。
其他	四四三	
合計	一九六、一八〇	
輸入品目	輸入金額	摘要
動物類	六〇〇	

原料品	一六、八五二	機械類、印刷用紙、糸、機械油を主とす。
食料品	二九、八一四	砂糖、馬鈴薯、食料油、マテ茶を主とす。
燃料品	二三、六八一	ベンジン、石炭を主とす。但し石炭の四割は再輸出さる。
既製品	四〇、八六六	金額上に於ては鐵製品を主とす。
其他	三九、八六〇	
合計	一五一、六七三	

此の國の統計には、各商品の輸出入に就いて、其の積出地とか、或は行先とかに就いては何等の記述がありませんので、日本との貿易に關しての内容は、少しも解らないのであります。不得止茲には一九二四年度に輸入されました主なる雜貨の輸入額を列べて、其の購買力の程度を窺ふ參考資料に供し度いと存じます。金額は査定額でありまして、單位は邦價の圓であります。

貝 類	其他の貝	齒 刷 子	服其他の刷子	玩 具	模造眞珠	天然眞珠
三五、五〇五	八〇、七七一	三五、〇九九	一〇、四六二	一三四、〇〇一	四、二三五	一八、五〇六
護 謨 毬	綿 洋 傘	絹 洋 傘	綿 日 傘	絹 日 傘	羅 紗 帽	麥 藁 帽
一五、二三九	二三、三〇〇	三三、五四二	一四、七九六	三、四〇七	七一、三三八	六四、一二七
經 木 帽	鉛 筆	萬 年 筆	消 ゴ ム	護 謨 サ ッ ク	紙 ナ プ キ ン 類	白 粉
七、〇一九	六四、〇五六	二、八五七	一一、二七三	一一、七一四	三一、九七七	一五一、六七五
フケトリ香油	フケトリ香水	白 髮 染	自 轉 車 (輪五五種以下)	自 轉 車 (輪五五種以上)	紙 製 電 氣 笠	ト イ レ ッ ト 紙
一〇三、八一九	二二八、三九九	一三、三五八	四、一九一 (一〇一臺)	九〇、六〇四 (一四五九臺)	二、五八五	二四、三八七

十二、伯 刺 西 爾

珈琲で名高い此の國は羅典亞米利加諸國中第二番目の貿易額を持つて居りまして、一九二五年度に於て凡そ十八億三千萬圓の貿易額と、一億八千萬圓程の輸出超過額とを示して居ります。國別に依ります輸出金額は (單位千圓)

對手國名	輸出金額	輸入金額	計	對手國名	輸出金額	輸入金額	計
北 米	四五三、五二八	二〇二、七三五	六五六、二六三	加 奈 陀	一、二七九	一〇、九三一	一二、二一〇
英 國	五〇、五七六	一八三、一九五	二三三、七七一	丁 株	九、二六二	二、五一八	一一、七八〇
獨 逸	六七、一一〇	一一四、九一四	一八二、〇二四	墨 國	—	一一、七四一	一一、七四一
佛 國	一二六、三六三	四七、八六三	一七四、二二六	英 印	—	一〇、〇三三	一〇、〇三三
亞 國	五四、三八三	九六、〇〇九	一五〇、三九二	西 國	四六八	九、三〇一	九、七六九
伊 國	六四、〇五五	二九、九九二	九四、〇四七	南 阿	—	一〇	九、二二三
和 蘭	六一、二八三	一一、二八三	七二、五六六	ノ ル ム ト	二、三三三	六七〇五	九、〇三八
白 國	二五、七九六	二七、六七九	五三、四七五	瑞 西	七	七、三三〇	七、三三七
ウ ル ガ イ	二三、六七八	八、二五七	三一、九三五	日 本	九八	一、五三二	一、六三〇
瑞 典	二一、二四八	七、一五四	二八、四〇二	其 他	二七、八六六	二〇、三四二	四八、二〇八
葡 國	五、五一四	一四、六四〇	二〇、一五四	合 計	一、〇〇四、〇六〇	八二四、一六四	一、八二八、二二四

でありまして、對米貿易は實に全體の三割六歩に相當致して居ります。然るに日本との貿易は實に寥々たるもので、是れが三千萬の人口と、日本の二十倍の面積とを持つた國との貿易かと思ふと、實に不思議でならないのであります。大使館も有り、領事館もあり、定期船も有り、しかも南米と云へば直ぐに此の國の事を連想する程、それ程よく吾々の間に知られて居りながら、其の貿易の方面に於ては實に斯の如く嘆

はしい状態にあるのであります。是れは要するに、伯刺西爾と云へば、直ぐに珈琲と移民とを連想して、日本内地に於いては専ら農業移民を送る事のみ没頭し、此の貿易の方面に對する方策を閉却して居つたが爲めであらうと存するのであります。私は本協會々員の方はもとより、吾國貿易業者が、一日も早く此の國に對する貿易的活眼を開かれん事を切望する次第であります。

此の國の主要なる輸出商品に就いて少しく説明申し上げますと

輸出商品	數	量	輸出金額	千圓	摘
珈琲	一三、四八一	九五五	七二二、五五二	七百萬担は北米へ、約二百萬担は英國へ輸出さる。	
護謨	二一、五七八	一九九	四五、九四〇	千四百萬担は北米へ、三百七十萬担は英國へ、次いで獨逸へも輸出さる。	
棉花	三〇、六三五	二六〇	三二、二七六	二千二百萬担は英國へ、四百五十萬担は佛國へ輸出さる。	
獸革	五六、〇四六	一七四	二八、五八七	二千五百五十萬担は獨逸へ、各八百餘萬担宛佛、英、ウルガイへ輸出さる。	
マテ茶	八六、七五四	九五三	二七、九五三	六千五百萬担は亞國へ、五百萬担は智利へ輸出さる。	
ココア	六四、五二五	五一五	二五、六一〇	三千三百萬担は北米へ、各六百萬担宛獨逸、佛へ輸出さる。	
煙草	三四、一七七	六六七	二二、五七七	千三百萬担は獨逸へ、各七百萬担宛亞、和へ輸出さる。	
冷蔵肉	五七、〇七七	一七九	一六、七四八	二千六百萬担は伊へ、一千萬担は佛へ、七百萬担はウルガイへ輸出さる。	
胡桃	一六、〇七九	二二〇	八、八八二	八百萬担は北米へ、七百萬担は英國へ輸出さる。	
獸皮	三、三七五	八〇九	八、四一三	山羊皮を主とし、羊皮之に次ぐ。二百八十萬担は北米へ輸出さる。	

が主要なる商品と其の輸出状況でありまして、流石に珈琲の輸出額は輸出總額の七割二歩程に相當して居るのであります。そしてその半分は北米へ輸出さるゝのであります。

主要なる輸入商品に就きましては (單位千圓)

輸入商品	數	量	輸入金額	摘
小麥	二五一、二五三	九〇〇	七、八六三	五億五百萬担を亞國より、一千一百萬担を加奈陀より輸入す。
絲織物	七、三二八	三四〇	四三、七六四	五百八十萬担を英、五十萬担を北米より、各三十餘萬担宛を佛伊へ輸入す
自動車	四三、七一四	臺	四二、二五一	四萬臺を北米より、五百臺を伊より輸入す。
小麥粉	一六四、〇三五	七三八	三四、八六三	八千百萬担を亞國より、六千三百萬担を北米より輸入す。
石炭	一、七〇二	八二三	三〇、一〇〇	百萬噸を英より、六十萬噸を北米より輸入す。
ガソリン	一四三、三一八	三七九	二二、八一九	一億千六百萬担を北米より、二千六百萬担を墨國より輸入す。
錫	二二、七八一	三七四	一三、〇一〇	八百萬担を英より、七百八十萬担をニウファンドランドより、三百七十萬担をノルエーより輸入す

が主なる商品と輸入状態であります。

此の國の統計には或る二三の商品を除いた物の外、其の輸出入先が記述してありませんので、本邦製雜貨の輸入状態に就いては知る事が出来ないのであります。それ故茲には單に一九二五年度に輸入された主要なる雜貨の全體としての輸入金額を御參考迄申述へやうと存じます。單位は圓でありまして、金額は領事インボイス面に記載されましたブラジル港渡値段であります。

ゴム製玩具	其他の玩具	護謨靴	護謨製品	花	火	扇	セルロイド製品
一九七、八五五	一、六九四、九六一	一〇一、六二一	一、〇四二、九五四	一八、七五九	二四、九二七	二一〇、七六七	
櫛	文房具	鉛筆類	手紙用箋	繪葉書及曆類	インク	ペン先	
二〇二、三四四	九〇七、六七〇	五九三、〇〇八	一、二七九、九二六	一、二九七、〇八四	一一一、五一八	二九七、二九九	

鉛類	硝子玉類	弗入類	皮革製品	蕪類	麥藁帽	洋杖類
八五一、七二六	三三五、三四四	八一、八二八	一、二二三、一四三	五七、四八六	四九、七五六	一〇七、四五八
化粧品	石鹼	目醒時計	柱時計	木製品	斐楊子	針
一、九二〇、四二六	二二三、七〇九	二六五、九八九	二七七、二八二	五八〇、二〇三	一三〇、一五〇	三三二、八四五
醫療機器具	齒科機器具					
四〇七、二一六	二六六、三八〇					

各國貿易状態と本邦製品の状勢とは大體以上の通りでありまして、時間の都合でこれ以上詳しく申上げて居られない事を甚だ遺憾に存じます。何れ機會のあります毎に各個の商品に就いては、色々見聞致しました處を御話申上げやうと存じます。

結 論

羅典亞米利加の購買力がどの位であるか、そしてそれに對する日本商品の現状は如何であるかと云ふ事は、今迄申上げて參りました事に依つて大體御了解を得た事と存じます。然しながら、吾國の對南米貿易の不振を、も少しく瞭然御了解願はんが爲めに、茲に歐米諸國と日本との貿易比較を申述へ、そして皆様の御奮起を願ひ、更に吾國對南米諸國との貿易状態を概説致しまして、本邦製品の宣傳、販路の開拓及擴張に對する方策を考へて見度いと存するのであります。

一、歐米諸國と日本との貿易比較

羅典亞米利加諸國中、今回旅商して參りました十二ヶ國に對して、歐米諸國がどの位の輸出額を持ち、

日本がどの位の商品を賣込で居るかと云ふことを纏めて申上げて見ますと、(單位千圓)

國名	輸出金額	百分比率	國名	輸出金額	百分比率
北米	一、六一三、五三九	三六・三%	西	一〇七、三四五	二・四%
英 國	七七九、六一六	一七・五%	和	五九、二〇七	一・三%
獨 逸	四五四、一五八	一〇・二%	日 本	二四、二八三	〇・五%
佛 蘭 西	二五四、四九二	五・七%	其 他	七七〇、二八一	一七・六%
伊 太 利	二二九、〇一六	五・一%	合 計	四、四四二、八九三	一〇〇・〇%
白 耳 齒	一五一、〇五六	三・四%			

であります。尤も此の數字は全部一九二五年度の統計のみに據つたものではなく、區々の年度の數字でありますけれども、是に據つて凡その概念を得て頂かうと思つて、此の數字を借りたのでありますから、其の點は誤解のない様に御承知置きを願ひ度いのであります。

即ち之に據つて見ますと、羅典亞米利加の十二ヶ國だけでも、既に四十四億圓以上の購買力を持つて居りますのに、日本はそれに對して僅に二千四百萬圓の商品を賣込んで居るに過ぎないと云ふ事が解るのであります。之を歐米諸國に比較して見ますと、英、米に及ばぬ事はやむを得ないと致しまして、白耳義や、西班牙や、和蘭にさへも遠く及んで居らないのであります。かうした状態が果して日本として當然であると諦めて居らるゝ状態でありませうか。私は日本の商品と是等諸國の商品とを比較して、其所にどんな差異があるとか、又日本の海運關係と是等諸國のそれとを比較して、其所にどんな選庭が有るとか更に又金融上の都合に於て、彼我にどんな相異が有るとかと云ふ問題に就いて、茲に兎や角の議論を致して居るよりも、先づ以て羅典亞米利加に對して何とかせねばならぬと云ふ御考を——いや貿易的勇猛心を

喚起して頂くやう、切望し絶叫致し度いと思ふのであります。

二、各國輸入總額と日本商品

羅典亞米利加に對する我が貿易發展策を考ふるに當りまして、もう一度靜に我が日本商品の彼の地に於ける現狀を振かへつて見度いと存じます。即ち今迄申上げて參りました各國別の狀態を茲に總括して檢討して見たいと思ふのであります。(單位千圓)

國名	輸入總額	日本商品輸入額	百分比率
墨西哥	三九〇,九九六	一,四九四(一九二五年度)	〇・四%
サルバドル	二八,〇一一	一,〇一一(一九二四年度)	三・六%
コスタリカ	二七,六四二	六〇(一九二五年度)	〇・二%
巴拿馬	二七,五三八	四八二(一九二四年度)	一・八%
コロンビア	一〇八,四〇一	五一九(一九二四年度)	〇・五%
ベネズエラ	一一一,四七〇	九二(一九二五年度)	〇・一%
秘魯	五九四,六四八	二,二四二(一九二五年度)	〇・四%
智利	一七八,三四四	一,八四五(一九二五年度)	一・〇%
亞利	二九七,六八九	二,五二九(一九二五年度)	〇・八%
ウルガイ	一,六九二,三一七	一一,二五八(一九二五年度)	〇・七%
伯國	一五一,六七三	一,二一九(一九二六年度)	〇・八%
合計	八二四,一六四	一,五三二(一九二五年度)	〇・二%
	四,四四二,八九三	二四,二八三	(平均) 〇・五%

是に依つて觀ますると、我が日本商品の輸入額は羅典亞米利加の何れの國に於ても、問題とるべき程さの數字になつて居らない事が、餘りにはつきりし過ぎて居つて、實に情無さに涙がこぼれて來るのであります。

百分比率から見ますると、羅典亞米利加十二ヶ國の輸入總額に對しまして僅に五厘強、各國別に致しましてコンマ以上の物が僅に三ヶ國、是れが我が國の羅典亞米利加に對する貿易の現狀であります。然らば之を如何にして發展増伸せしむべきであるか。其の問題に對しまして、私は次の案を呈し度いと思ふのであります。

三、吾國の採るべき對策

羅典亞米利加の地域が極めて廣大である事や、獨立共和國の數の多い事は、既に申上げた處であります。が、吾國貿易増伸の對策としては、先づ之を次の四つの貿易地帯に區分して考ふる事が最も便利であらうかと存するのであります。即ち

- 第一貿易地帯——墨西哥、巴拿馬、エクアドール、秘魯、ボリビア、智利の太平洋岸に於ける諸國。
 - 第二貿易地帯——伯刺西爾、パラガイ、ウルガイ、亞爾然丁の太平洋岸に於ける諸國。
 - 第三貿易地帯——グアテマラ、サルバドル、ホンデラス、ニカラグア、コスタリカの中米諸國。
 - 第四貿易地帯——コロンビア、ベネズエラ、玖馬のカリビアン海に於ける諸國。
- の四地帯であります。

第一貿易地帯に對しましては、日本郵船の定期船が通ひ、第二貿易地帯に對しましては大阪商船の定期

船と、日本郵船の不定期船とが通つて居ります。さうして日本人の商店が僅計りとは申しながら、兎に角存在して居つて、本邦商品の宣傳を熱心に行つて居らるのであります。然るに從來及現在の貿易状態は唯今申上げました通り、極めて振はない状態なのであります。其處には商品の宣傳以外に何物かの障壁となるべき原因があらねばならぬと思はれるのであります。

今回旅商として廻りました體驗と、見聞とから歸納致して見ますと、茲に五つの主なる原因を擧げる事が出来るやうに思ふのであります。即ち

- 一、海上運賃が比較的高過ぎる事
- 二、歐米の支拂條件に追隨する事が出来ない事
- 三、製造者と貿易業者とが未だ充分協力して居らない事
- 四、海外在留日本商店が未だ少い事、殊に本居を海外に構へた日本人商店の有力なるものが殆ど一つもない事

五、或る特種な商品になるとマークばかり登録されて居つて其の宣傳販賣に力の盡されて居らない事の五つであります。從て此の第一及第二貿易地帯に對しましては、先づ以て是等の障壁となつて居る病原を治療せねばならぬ筈で、其の治療方法に就きましては、私は本協會々員の皆様の熱心なる御盡力にお任せ致し度いと存するのであります。

第二及第三貿易地帯に對しましては、直接の運輸連絡は唯今存在して居りませぬが爲に、非常なる高率の運賃と、桑港積換の爲に生ずる延着との不便を忍んで、微かに交易を續けて居る次第であります。是は

吾國貿易發展の爲に一大障害でありまして、一日も早く改善を要すべき重要點であります。

直接の運輸連絡が無いのみならず、我が國の領事館もないし、又在留邦商も居らないと云ふ次第で、從て本邦製品の宣傳なども極めて不充分で、今後異常の力を盡すのでなければ到底此の方面に對しての發展は望まれまいと信ずるのであります。

即ち此の第二及第三貿易地帯に對しましては、全くの新販路を開拓する意味に於て、政府に於ては領事館の設置を速にし、船會社に於ては運輸直通の途を講じ、貿易業者に於ては商品の宣傳に力を盡す事等を十二分にしなければならぬのであります。

要するに、官民一致、即ち政府も銀行も船會社も製造家も貿易業者も、一丸となつて吾國貿易増伸に熱中するのでなければ到底成果は收め得られまいと信ずるのであります。

四、雜貨の使命

かう申上げて參りますと、我が日本商品の羅典亞米利加に於ける現状は極めて不振であるから、官民一致して貿易状態の改善に力めねばならぬと云ふ事だけは充分御了解を得、且つ御賛同を得た事と信ずるのであります。

そこで本邦製品の中に於きましても、最も多くの製産者に關係を持つて居ります雜貨に就いて考へて見ますと、雜貨は貿易戦の歩兵でありますが故に、此際先づ突撃の準備をさせねばならぬのだと思ふのであります。

需要者の立場から雜貨を見ますと、日用品か或は趣向品でありますが故に、特種の場合の外は連續的

に購買されて行くものであります。是は我が日本にとりまして非常なる恩恵でありまして、歐米諸國から見ますと。地理的に最も不利の立場にあります日本も、雜貨の輸出に就きましては、需要者が特に急ぐの要がない爲に、距離とか時間とかの點に於て、歐米諸國から何等の恐威を受ける事なしに輸出する事が出来るのであります。即ち雜貨は本邦製品中極めて便利の地歩を占めて、競争市場に前進する事が出来る商品なのであります。

かうした地位にあります雜貨を、此際歩兵戦を演じさせる爲に、即ち先づ市場を獲得する準備の爲に、羅典亞米利加に向つて輸出してやる事に努力すると云ふ事は、我貿易増伸の第一階梯として最も緊要な事であらうと存するのであります。

雜貨の使命は、即ち貿易戦上の歩兵として、市場の獲得にあづからしめらるゝと共に、又獲得地帯を保有する爲にも用ひらるゝべき物でありますが故に、其の宣傳と販路との範圍及大小は直に我國の貿易状態の縮圖として見らるべきものであらうと存するのであります。從而我が國の貿易増伸を企圖せらるゝ時は、先づ雜貨の輸出増進に意を用ひられねばならぬと思ふのであります。

幸に私の此の報告が皆様の御参考となる事を得まして、現在の我が貿易状態の改善を見、羅典亞米利加に對して一大發展をする事が出来ましたならば、私の光榮は之にしくものであります。

(完)

昭和二年八月十三日印刷
昭和二年八月十五日發行

横濱市子安町二百八十一番地
發行兼編輯人 齋 藤 眞
横濱市住吉町五丁目七十二番地
印 刷 人 鈴 木 清 吾
横濱市住吉町五丁目七十二番地
印 刷 所 横 濱 活 版 舍
横濱市山下町三十四番
發行所 社 國 横 濱 貿 易 協 會
法 人